尋常小學國史掛圖

第六學年

松浦惣五郎編著
田中惠一
勝田哲編畫

東京
大阪
湯川弘文社

教科書文庫
4
210
31-1936
2000069004

42948
教科書文庫
4
210
31-1936
20000
69004

資料室

教科書文庫
4
210
31-1936
2000069004

尋常小學國史附圖

第六學年用

京都帝國大學講師
大阪府女子師範學校教授
魚澄惣五郎 編著
福田惠一 編畫
勝田哲 編畫

東京
大阪
湯川弘文社

広島大学
教
69004
図書

広島大学図書
2000069004

3a
210
昭11

織田信長の桶狭間出陣（第三十三參照）

福田惠一畫

今川義元の軍に攻められて鷲津の砦危しとの知らせについで、丸根の砦も陥つたとの警報が、あわたゞしく、尾張清洲の城にあつた信長の下に告げられた。城中はざわめき立ち、「敵兵は四萬、我は三千。此の上は城に據つて防ぐにしかず。」との老臣達の意見もあつたが、信長はこれを肯かなかつた。「鼓を持て」との信長の甲高い聲がしたと思ふと間もなく、澄んだ鼓の音が城内に響き渡つた。雄々しくも固い決心を眉宇にひそめた信長が、悠々と鼓をうつてゐる。やがて奮然と立上つた信長は「人生五十年夢の如し…」と、即ち舞を奏し終るや、部下の揃ふをも待たないで、直に一鞭高く馬を驅つて城を出で、桶狭間に向つた。

織田信長の桶狭間出陣（第三十三參照）

今川義元の軍に攻められて鷲津の砦危しとの知らせについで、丸根の砦も陥つたとの警報が、あわたゞしく、尾張清洲の城にあつた信長の下に告げられた。城中はざわめき立ち、「敵兵は四萬、我は三千。此の上は城に據つて防ぐにしかず。」との老臣達の意見もあつたが、信長はこれを肯かなかつた。「鼓を持て」との信長の甲高い聲がしたと思ふと間もなく、澄んだ鼓の音が城内に響き渡つた。雄々しくも固い決心を眉宇にひそめた信長が、悠々と鼓をうつてゐる。やがて奮然と立上つた信長は「人生五十年夢の如し…」と、即ち舞を奏し終るや、部下の揃ふをも待たないで、直に一鞭高く馬を驅つて城を出で、桶狭間に向つた。

福田惠一畫

小學國史附圖年代表

紀元: 2600 2500 2400 2300 2200 2100 2000 1900 1800 1700 1600 1500 1400 1300 1200 1100 1000 900 800 700 600 500 400 300 200 100 1

天皇

- 124 今上天皇
- 123 大正天皇
- 122 明治天皇
- 121 孝明天皇
- 109 明正天皇
- 107 後陽成天皇
- 106 正親町天皇
- 105 後奈良天皇
- 103 後土御門天皇
- 99 後亀山天皇
- 96 後醍醐天皇
- 91 後宇多天皇
- 82 後鳥羽天皇
- 73 堀河天皇
- 70 後冷泉天皇
- 59 宇多天皇
- 56 清和天皇
- 50 桓武天皇
- 48 桃徳天皇
- 45 聖武天皇
- 43 元明天皇
- 42 文武天皇
- 38 天智天皇
- 36 孝徳天皇
- 33 推古天皇
- 29 欽明天皇
- 16 仁徳天皇
- 15 應神天皇
- 14 仲哀天皇
- 12 景行天皇
- 11 垂仁天皇
- 10 崇神天皇
- 1 神武天皇

時代區分

昭和 大正 明治 | 江戸時代 | 安土桃山時代 | 室町時代（戰國時代） | 吉野時代 | 鎌倉時代（源氏 平氏） | 平安時代 | 奈良時代 | 上代 | 神代

主なことがら

- 神武天皇即位の禮を行ひたまふ（紀元元年）
- 天照大神の宮を伊勢に遷しまつらしめたまふ（六五六）
- 景行天皇熊襲を討ちたまふ（七四〇）
- 日本武尊蝦夷を討ちたまふ（七七〇）
- 日本武尊熊襲を討ちたまふ（七七〇）
- 神功皇后新羅を討ちたまふ（八六〇）
- 王仁論語などをたてまつる（九四五）
- 百濟より始めて佛教をつたふ（三三二）
- 聖德太子使を支那につかはしたまふ（六〇七）
- 大化の新政はじまる（六四五）
- 藤原鎌足をして法令を定めしめたまふ（六六八）
- 大寶律令なる（七〇一）
- 都を奈良にさだめたまふ（七一〇）
- 和氣清麻呂道鏡をくじく（七八九）
- 都を京都にさだめたまふ（七九四）
- 藤原房前を攝政としたまふ（八一八）
- 遣唐使の派遣をとゞめたまふ（八五四）
- 源頼義安倍貞任を滅す（一〇五三）
- 白河上皇政を院中に聽きたまふ（一〇八六）
- 源義家清原武衡らを滅す（一〇八七）
- 源頼朝征夷大將軍に任ぜらる（一一九二）
- 承久の變（一二二一）
- 文永の役 弘安の役（元寇）（一二七四～一二八一）
- 院政やゝ後醍醐天皇政をみづからしたまふ（一三二四）
- 北條氏亡び鎌倉府たふる（一三三三）
- 後亀山天皇京都に還幸したまふ（一三九二）
- 應仁の亂起る（一四六七）
- キリスト教始めてつたはる（一五四九）
- 足利義昭追はれて足利氏亡ぶ（一五七三）
- 徳川家康征夷大將軍に任ぜらる（一六〇三）
- 島原の亂起る（一六三七）
- 徳川光圀大日本史の編纂をはじむ（一六五七）
- 徳川吉宗洋書輸入の禁をゆるむ（一七二〇）
- 本居宣長古事記傳を著す（一七六五）
- アメリカ合衆國使節ペリー來る（一八五三）
- 明治天皇誓文を奉戴したまふ（一八六八）
- 帝國憲法 皇室典範を發布したまふ（一八八九）
- 明治天皇崩御 大正天皇踐祚したまふ（一九一二）
- 大正天皇崩御 今上天皇踐祚したまふ（一九二六）
- 滿洲事變起る（一九三一）
- 盛陽開戰をのぐ（一九三七）

建物による體系

- 明治神宮
- 日光東照宮
- 大阪城
- 金閣寺
- 金色堂
- 鳳凰堂
- 平安神宮
- 東大寺
- 熱田神宮
- 出雲大社
- 皇大神宮

朝鮮

併合 | 朝鮮 | 高麗 | 新羅 | 三國

支那

中華民國 | 清 | 明 | 元 | 宋 | 五代 | 唐 | 隋 | 南北朝 | 晉 | 三國 | 漢 | 秦 | 周

外國の主なことがら

- ●歐洲大戰
- ●ベルサイユ平和會議
- ●ワシントン會議
- ●ゼネヴァ軍縮會議
- ●ロンドン會議
- ○リンカーン
- ○ナポレオン
- ●汽船汽車發明
- ○ワシントン
- ●紡績機械發明
- ○フランクリン
- ○ペートル大帝
- ●顯微鏡の發明
- ●望遠鏡の發明
- ●コロンブス アメリカ發見
- ●印刷術發明
- ○忽必烈
- ○マルコポーロ
- ○朱子
- ●高麗起る
- ●新羅起る
- ○諸葛孔明
- ●新羅 高麗 百濟起る
- ○キリスト
- ●佛教支那に傳來
- ○秦始皇帝
- ●萬里の長城
- ○孟子
- ○ソクラテス
- ○釋迦
- ○孔子
- ●スパルタ全盛

1500 1000 500 1 前500

西歷

二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一 世紀 一（前） 二 三 四 五 六 七

七卿落（第五十參照）

勝田哲畫

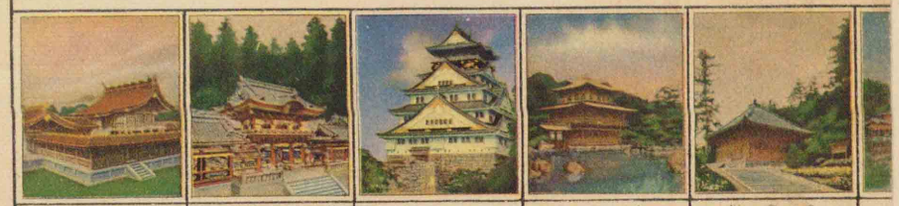
圖年代表

2600 2500 2400 2300 2200 2100 2000 1900 1800 1700 1600 1500 1400

124 今上天皇　123 大正天皇　122 121 明治天皇　109 明正天皇　107 後陽成天皇　106 正親町天皇　105 後奈良天皇　103 後土御門天皇　99 後亀山天皇　96 後醍醐天皇　91 後宇多天皇　82 後鳥羽天皇　70 後冷泉天皇　73 堀河天皇　59 宇多天皇　56 清和天皇　50 桓武天皇　48 桓武天皇　45 聖武天皇

昭和 大正 明治時代　江戸時代　安土桃山時代　室町時代（戰國時代）　吉野時代　鎌倉時代（源氏）　平安時代（平氏）　奈良時代

- 和氣清麻呂通鏡をくじく（一四二九）
- 都を京都にさだめたまふ（一四五四）
- 藤原良房を攝政としたまふ（一五一八）
- 遣唐使の派遣をとゞめたまふ（一五五四）
- 源頼義安倍貞任らを滅す（一七二二）
- 白河上皇政を院中に聽きたまふ（一七四九）
- 源義家清原武衡らを滅す（一七四七）
- 源頼朝征夷大將軍に任ぜらる（一八五二）
- 承久の變（一八八一）
- 文永の役　弘安の役（一九七四）（一九三四）
- 院政やめ後醍醐天皇政をみづからしたまふ（一九八一）
- 北條氏亡び鎌倉府たふる（一九九三）
- 後亀山天皇京都に還幸したまふ（二〇五二）
- 應仁の亂起る（二二二七）
- キリスト教始めつたはる（二二〇九）
- 足利義昭追はれて足利氏亡ぶ（二二二二）
- 徳川家康征夷大將軍に任ぜらる（二二六三）
- 島原の亂起る（二二九七）
- 徳川光圀大日本史の編纂をはじむ（二三二七）
- 徳川吉宗洋書輸入の禁をゆるむ（二三八〇）
- 本居宣長古事記傳を著す（二四五八）
- アメリカ合衆國使節ペリー來る（二五二三）
- 明治天皇踐祚したまひ廢藩大政を奉還す（二五二七）
- 帝國憲法　皇室典範を發布したまふ（二五四九）
- 明治天皇崩御　大正天皇踐祚したまふ（二五七二）
- 大正天皇崩御　今上天皇踐祚したまふ（二五八六）
- 滿洲事變起る（二五九二）
- 獨逸戰禍をのく（二五九三）



明治神宮　日光東照宮　大阪城　金閣寺　金色堂

併合：朝鮮　高麗　高羅

中華民國：清　明　元　宋　五代　唐

- ●歐洲大戰
- ●ベルサイユ平和會議
- ●ワシントン會議
- ●ゼネヴァ軍縮會議
- ●ロンドン會議
- ○リンカーン
- ○ナポレオン
- ●汽船汽車發明
- ○ワシントン
- ●紡績機械發明
- ○フランクリン
- ○ペートル大帝
- ●顯微鏡の發明
- ●望遠鏡の發明
- ●コロンブス　アメリカ發見
- ●印刷術發明
- ○忽必烈
- ○マルコポーロ
- ○朱子
- ●高麗起る

1500　1000

二〇　一九　一八　一七　一六　一五　一四　一三　一二　一一　十　九　八

長門藩の請によつて攘夷御親征は仰せ出されたが、實は討幕の第一歩であつたから、京都守護職松平容保は薩摩藩とはかり、その反對を奏上した。そこで朝議は俄かに一變し、長門藩は宮門護衛の任を解かれたから、一朝にして勢力を失ひ、三條實美を始め、三條西季知・東久世通禧・四條隆謌・壬生基修・錦小路頼德・澤宣嘉の七卿は雨しとゞ降りしきる闇路を、人目を避けて灯の光もにぶく長門に落ちた。實に文久三年八月十八日の夜のことで、これを世に七卿落といふ。

はしがき

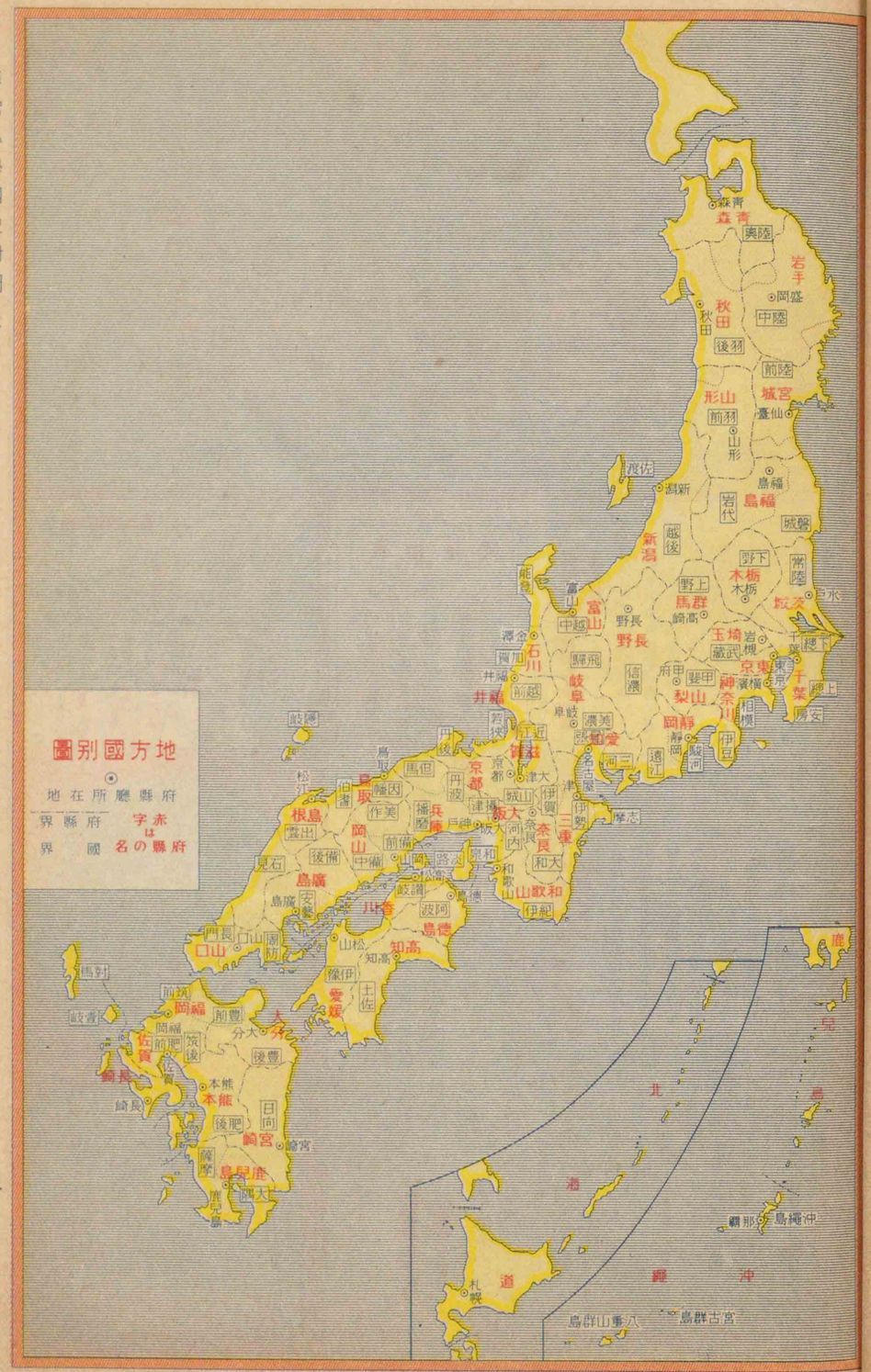
この附圖は兒童が國史の教科に親しみ、よくこれを呑みこんで立派な學習の成績をあげ、かねて切實な國民的志操を養ふやうにとの目的で編したもので、種々の興味深い繪圖・寫眞・地圖・筆蹟等によつて、兒童がおのづからその時代や歴史上の人物に親しくなつた樣な氣持になつて、はじめてこの附圖の大切な目的が遂げられるのであります。これがためには次の樣に種々工夫をこらしました。

一、歴史を繪圖であらはすと、あたかも映畫のフイルムか、繪卷物を繰りひろげた樣に、永い年月の歴史事實を一目で直觀せしめ、また時代觀念をはつきりせしめることが出來ると思ひます。それで今目の前に歴史の有樣が浮ぶ樣にと、なるべく動的な繪圖を多く入れました。

二、兒童はかなり敏感なものでありますから、繪畫の描法や、製版の粗雜なものの與へる惡い影響を顧慮して、特に畫伯の苦心によつて單なる繪畫としても立派なものを擧げる樣につとめ、製版は最も進歩した精巧な方法により相當に苦心しました。

三、繪畫・筆蹟その他の史蹟・遺物の寫眞等は、たしかなよりどころあるものをとることとしたことは勿論でありますが、原據の絶對に求められないものは、研究を遂げて妥當な構圖を作りました。

四、兒童が現在隨時に見ることの出來る遺蹟・遺物の寫眞等を多く挿入して、これによつて史蹟に馴



染み、これを尊ぶ精神を養ふ樣に注意しました。

五、繪圖の說明は左右のページに對照せしめて、なるべくわかりやすく、簡單に大體をつかむことが出來る樣に注意しました。また地圖は相當に多く挿入して地理的の理解をたすけ、最後の年表には大切なところに逆算年數をも記入しました。系圖も出來るだけ、正確と思はれるものにより十分注意しました。

もとより本書は小學校在學中ばかりでなく、永く左右において役立つ樣にと注意したのでありますが、各位の有益な助言によつて、本書をますゝ完璧といたしたい所存であります。

尙本書の編纂には大阪府天王寺師範學校附屬小學校訓導平子鼎氏が多年實際の經驗によつて終始助力せられ、また林伸亮氏・豐國年亮氏の兩畫伯が挿繪に非常な努力を拂はれたことについて深く感謝いたします。

また畫伯福田惠一・勝田哲兩氏がその麗筆をもつて、卷頭の口繪に一段の光彩を添へられたことは特に銘記して謝するところであります。

魚澄惣五郎

織田信長

織田信長

織田信長桶狹間に今川義元を襲ふ

織田信長皇居を修理し奉る

織田信長本能寺に最後を遂ぐ

群雄割據地圖

統一機運に於ける領國界と領主名

領主の名なきは多くは所屬常なきふ城主

織田信長

大鎧をつけた勇ましい信長の像である。尾張の國（愛知縣）から起つて天下を平定する礎を築いたが、業半で逆臣光秀の爲に京都本能寺の煙と消えたのは誠に惜しいことであつた。

桶狹間戰地圖

北軍　南軍

織田信長桶狹間に今川義元を襲ふ

勇ましい騎馬姿の信長が、桶狹間にはせ向ふ圖は教科書の通りである。折からの暴風雨の中を信長に不意を襲はれた今川義元は、中部地方第一の大將であつたが、わづかの油斷から敗れて遂に戰死をとげた。

これより信長の威名四方に高まり天下統一の基が開かれた。

織田信長皇居を修理し奉る

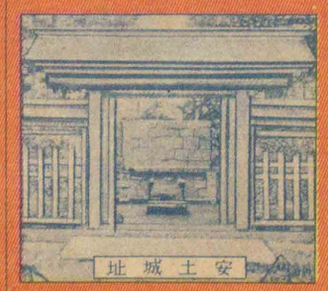
信長は皇室尊崇の念厚く、正親町天皇の勅を拜して京都に上り近畿地方を平定して天皇の御心を安んじ奉るとともに、長年荒廢してゐた皇居を御修理申上げた、圖は自らその指圖にあたつてゐるところである。

建勳神社

京都市の船岡山にあつて、太政大臣從一位織田信長をおまつりしてゐる別格官幣社である。

織田信長本能寺に最後を遂ぐ

信長は秀吉の請により中國に向ふため僅かの兵をつれて京都の本能寺に宿つた時、前から主を怨んでゐた明智光秀が俄にそむいて不意に襲つて來たので信長は弓の弦が切れるまで敵をふせいだし又家來で武勇に優れた森蘭丸も共に奮戰したが、遂に力及ばず無念の最後を遂げた。時に天正十年（紀元二二四二年）六月二日の朝で信長の天下平定のくはだてはこの爲半にして終つた。

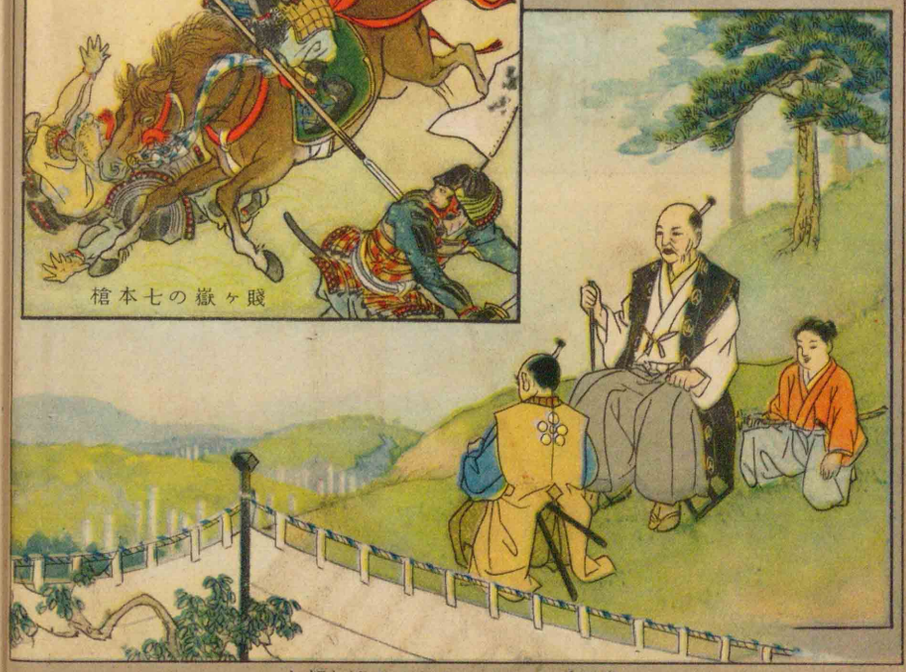


豐臣秀吉
（其の一）

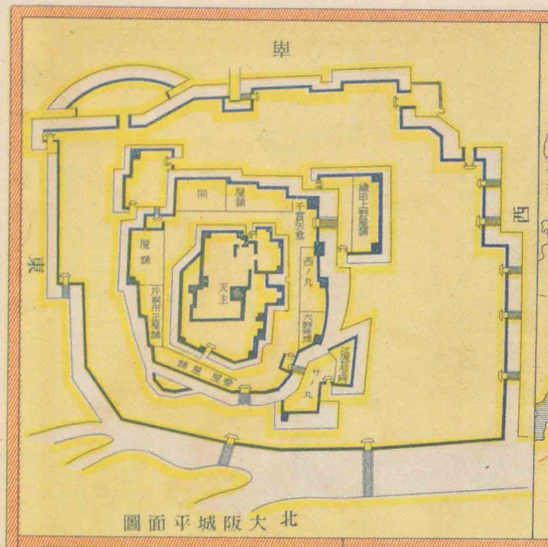
矢矧川橋上の秀吉

豐臣秀吉軍船を見送る

賤ヶ嶽の七本槍

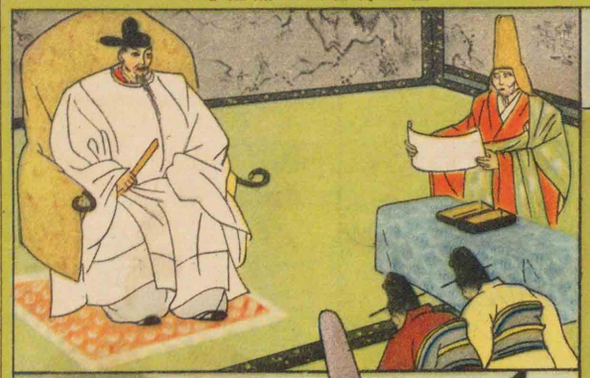


豐臣秀吉石垣山より小田原城を望む


東
西
海
櫓
櫓
櫓

豐臣秀吉（其の二）

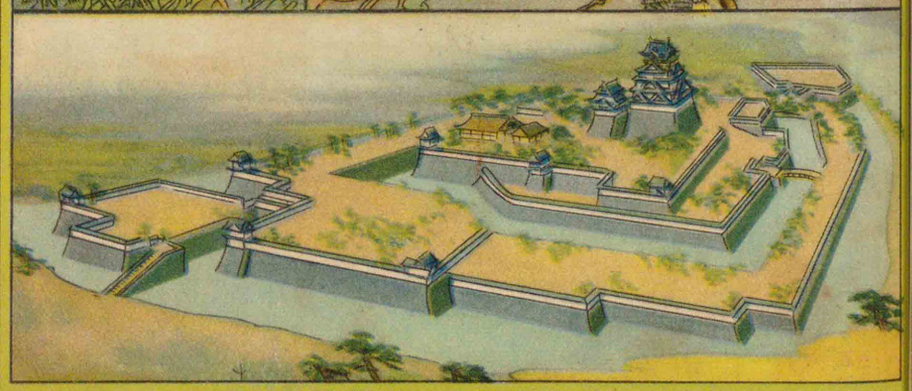
豐臣秀吉明の無禮を怒る



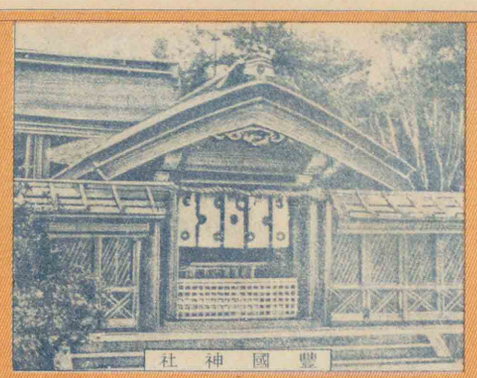
豐臣秀吉

加藤清正虎退治

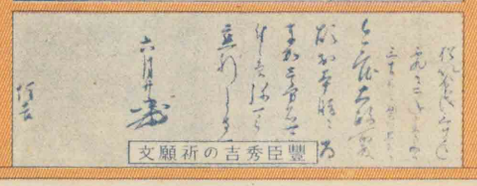
碧蹄館の戰



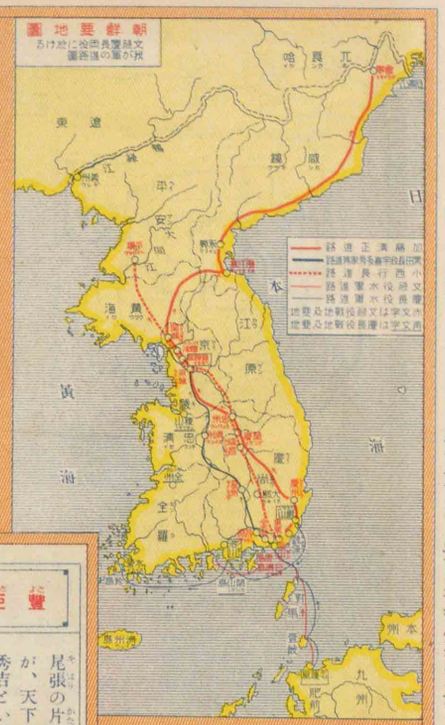
豐臣時代の大阪城



豐國神社



豐臣秀吉の祈願文



朝鮮要地圖

文祿慶長の頃に於ける豐臣秀吉の朝鮮征伐圖

豐臣秀吉

尾張の片田舎に百姓の子として生れた秀吉が、天下を統一して遂に關白太政大臣豐臣秀吉といはれる身分にまでなつた。然し秀吉はよく皇室を尊び、國威を輝し又母に孝養を盡くすなど誠に立派な行をした人である。今京都市の豐國神社（別格官幣社）にまつられてゐる。

豐臣秀吉明の無禮を怒る

明の使を前に今その國書を讀んでゐるのが、承兌といふ南禪寺（京都市）の僧である。この時その文中に

特封爾爲日本國王

なんぢを封じて日本國王となすとあつたので、秀吉は烈火のやうに怒つて使者を追返し二度目の朝鮮征伐をはじめたのである。

加藤清正の虎狩

朝鮮征伐の時、先手の大將として連戰連勝の勢で進んだ清正は、北朝鮮で士氣をはげますために度々虎狩をした。この繪は自まんの槍をしごいて、大虎を見事に突きさした清正の勇ましい姿である。

碧蹄館の戰

小西行長を討破つた明の大軍は進んで開城を陷入れたので行長は京城をすて、退却した。この時小早川隆景等は京城府の北、碧蹄館で五、六倍もある敵の大軍を美事に討破つて、大へん國威をあげた。この圖は隆景の勇ましい奮戰ぶりである。

豐臣時代の大阪城

秀吉は大阪を要害の地とみこんで、早くも天正十一年に大阪城を築きはじめた。日本一の名城としてはづかしくない誠に立派な城が出來上つたが、後に燒けたりこはされたりして、今はたいへん小さくなつてゐるが、それでも尙廣いものである。この繪は大體その頃の城の全體を想像して描いたものである。

加藤清正

小早川隆景

里之關懇
求內附情
既堅於恭
順恩可靳
於柔懷茲
特封爾為
日本國王

明の國書

德川家康

德川家康安倍川原に石合戰を見る

日光東照宮

大阪夏の陣

德川家康

幼にして父母を失ひ艱難の中に成人した家康は大きな力を持ちながらよく時の來るまでたへしのんで、遂に天下を取つた上に、江戸時代三百年の泰平の基をひらいた。これは、信長や秀吉になかつた長所をもつてゐたからである。

家康石合戰を見る

安倍川原（靜岡縣）で小供たちの石合戰を見た家康は、小人數の方が一生けんめいだから、きつと勝つといつて幼にして既に人の氣を見拔く智慧をあらはした。

大阪夏の陣

元和元年（一二一七五）の大阪夏の陣で眞田幸村等の人々は豐臣氏の爲め最後まで勇ましく戰つて花と散り、秀頼も亦自刄し果てたので豐臣氏は全く滅んでしまつた。

關原の戰

關ヶ原の合戰は天下分目の戰といはれ、まことに家康方にとつても三成方にとつても命がけの大戰爭であつたが、遂に家康は勝利を占めて天下を取ることが出來た。この圖は馬上の家康のさしづぶりである。

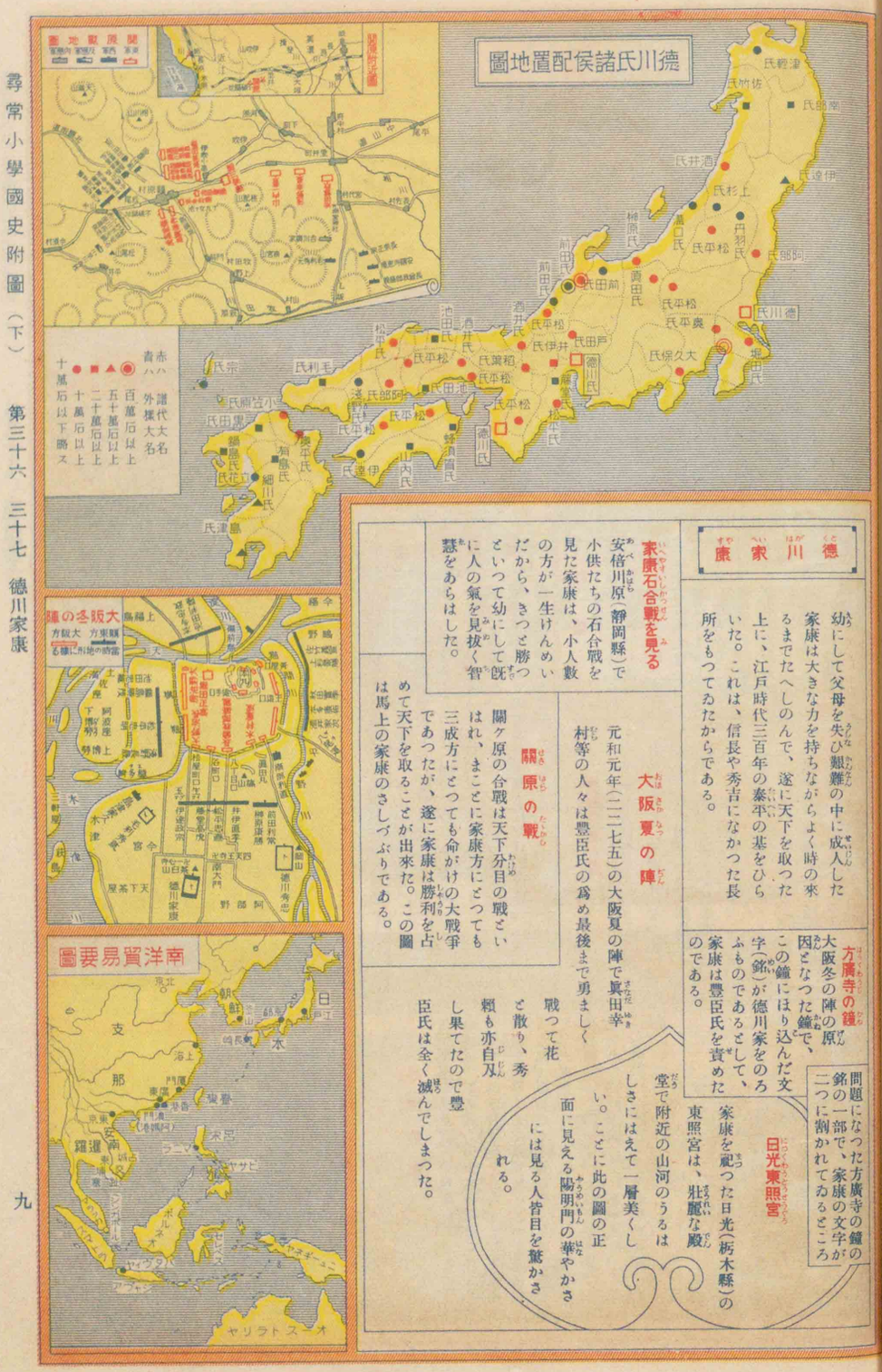
方廣寺の鐘

大阪冬の陣の原因となつた鐘で、この鐘にほり込んだ文字（銘）が德川家をのろふものであるとして、家康は豐臣氏を責めたのである。

問題になつた方廣寺の鐘の銘の一部で、家康の文字が二つに割かれてゐるところ

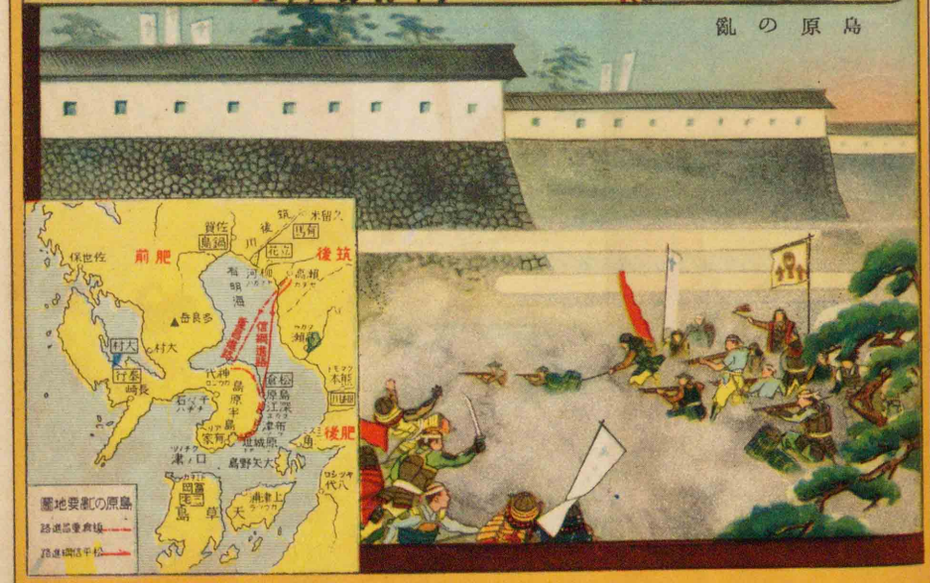
日光東照宮

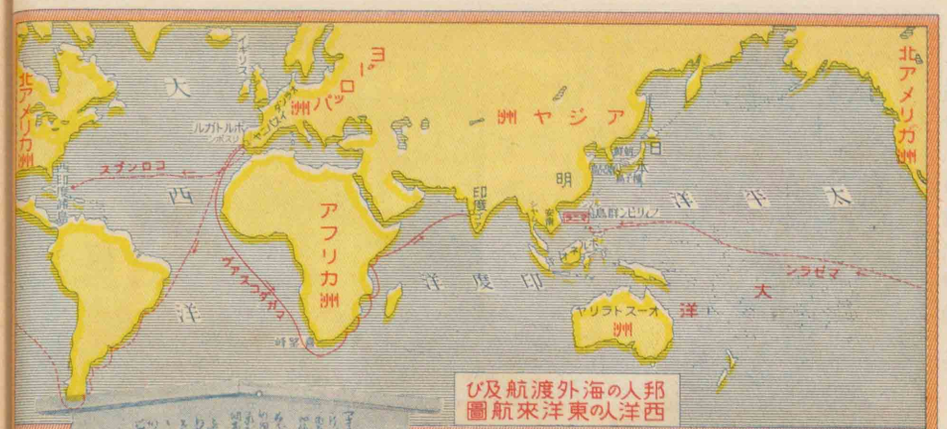
家康を祀つた日光（栃木縣）の東照宮は、壯麗な殿堂で附近の山河のうるはしさにはえて一層美くしい。ことに此の圖の正面に見える陽明門の華やかさには見る人皆目を驚かされる。



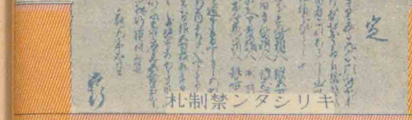
德川家光

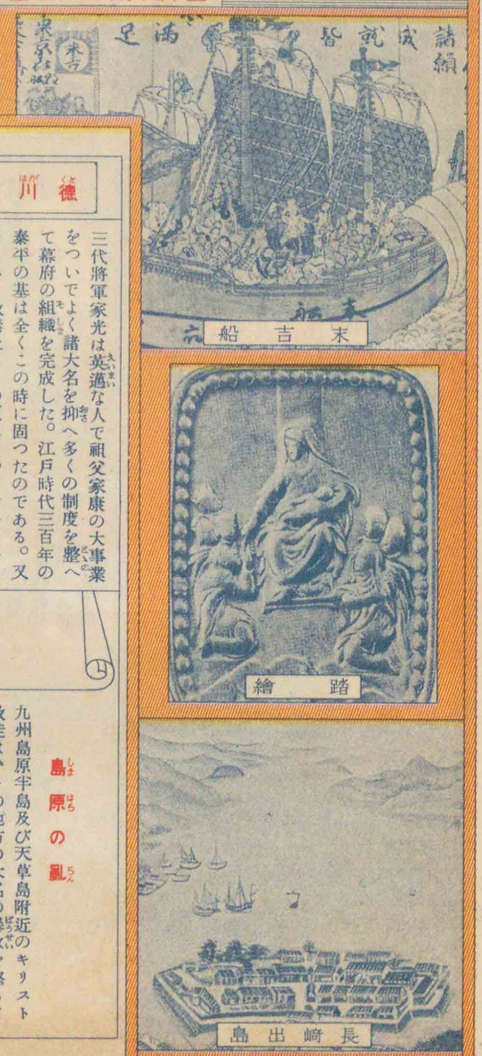
德川家光





邦人の海外渡航及び西洋人の東洋來航圖





德川家光

三代將軍家光は英邁な人で祖父家康の大事業をついでよく諸大名を抑へ多くの制度を整へて幕府の組織を完成した。江戸時代三百年の泰平の基は全くこの時に固つたのである。又キリスト教禁止もこの頃になつて、いよいよ嚴しく取締られ、遂にはキリスト教の布教に關係する外國との交通を嚴禁された爲國民は海外の事情にうとくなつた。

踏絵

幕府はあらゆる苦心をつづけてキリスト教の禁絶をはかつたが、容易に信者は絶えなかつた。踏絵はキリストの像を畫いたものでこの絵を踏ましゝ、その態度を見て信者か否かを調べたものである。はじめは紙や木のものを用ひたが、後には金屬製のものを用ひた。

長崎交易の圖

早くから外國貿易の港として開けた長崎は、鎖國後になつてからは、わが國唯一つの開港場となり、オランダ・支那の商人はここに來て貿易をした。この絵は鎖國前の頃オランダ・イスパニヤ・ポルトガルなどから集る外國船と、外國人が上陸する樣子を描いたものである。

島原の亂

九州島原半島及び天草島附近のキリスト教徒は、その地方の大名の暴政を怒ると共にキリスト教復興を計らうとして天草時貞を大將として原城址によつて亂をおこした。幕府はその勢の盛んなのに驚いて、大軍をもつてこれを攻めたが殉教の決心固くよく防いだので幕府軍は甚だ苦戰であつたが、遂にこれを平げた。これから幕府は一層キリスト教徒の取締を嚴重にした。

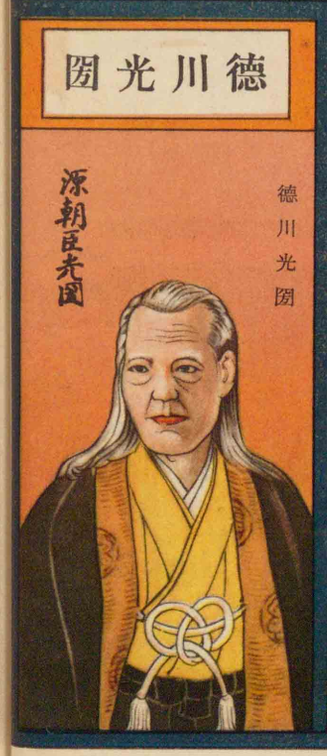
島原の亂要地圖

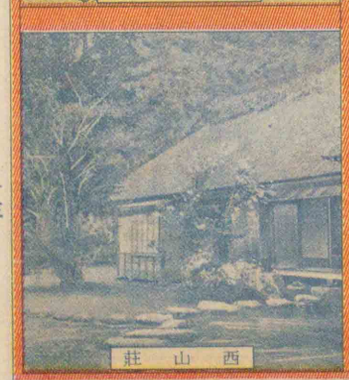
長崎と熊本の中間にある島原半島は殆んど島のやうで、原城はその南端海岸にそびえる要害の城であつた。

後光明天皇

後光明天皇所司代の言を斥け給ふ

德川光圀





後光明天皇

天皇はいたく幕府の專横をお憤りになり「紫衣」のことで遂に「あしはらやしげらはしげれ…」の一首を殘して御位をお讓りになつた。

後水尾天皇

天皇は明正天皇の御異母弟にあらせらる。御聰明の方にましまし、學問を好ませられ、朝廷の御威光を盛にしやうと思召されたが、不幸にして早く崩御あそばされた。

後光明天皇

後光明天皇所司代の言を斥け給ふ

京都所司代板倉重宗は御光明天皇が御飾を好み給ふを見て幕府にはゞかり

「天皇がお止めにならないと拙は切腹するより致方が御座いません」と申上げた。天皇は「朕は未だ武人の切腹をしらないからよろしく席をもうけて切腹せよ」と仰せられたので恐入つて引きさがつたどつたへられてゐる。

德川光圀

光圀は自ら質素を旨とし儉約をすゝめたが世の中の一般は益々せいたくの風が加るのを憂念がつて事ある度に手本を示してその風をおさへた。この紙は女中達が紙を粗末にするのを戒めるために一當時紙はまことに貴重なものであつた）その製造の有樣を見せてゐるところで、折から寒中のことゝて身を切る樣な水中で一枚づゝ造られる樣を見て女中達はひとしく紙を大切にするやうになつたといはれてゐる。

德川光圀儉約をすゝむ

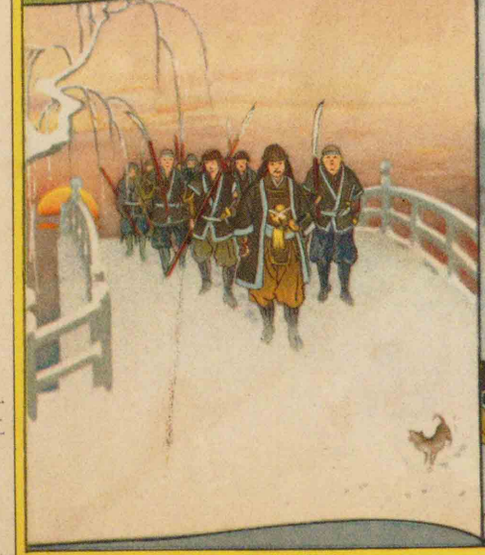
林道春

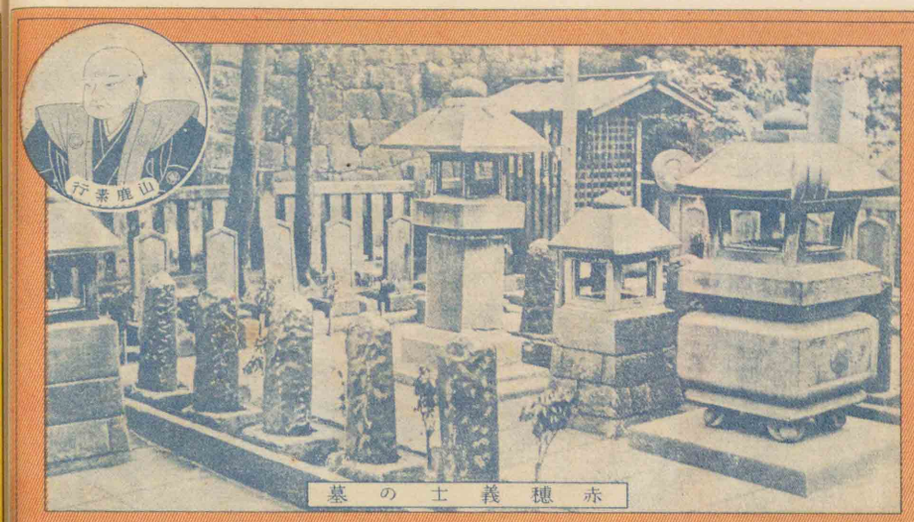
名は信篤、羅山とも號した。家康に召出されて漢學を講じて以來子孫代々幕府の儒官となつた。

德川光圀

水戸の藩主、家康の孫に當る。忠義の念厚く、よく學問をおこし、善政を行つた。又一生の一大事業として大日本史の著述に志し、晩年よく大義を明かにし名分を正した功は大きい。

大石良雄





大石良雄

世は擧げて元祿の華美と遊惰に流れてゐる時「萬山重からず君恩重し」として同志と共に苦心慘憺の後、遂に主君の仇を報じた大石良雄の姿である。上の字は良雄の書いた文字である。

大石良雄舊邸

元祿時代の夕涼み

元祿の頃は世の人は泰平になれてだんだん華美となり奢侈遊惰に流れて、元祿風をなした。この繪はその頃、江戸で川邊に集つて夕涼みをしてゐる風俗を描いたものである。

芝居

淺野長矩吉良義央を傷つく

勅使の接待役であつた長矩は、その指圖役義央のたび〳〵のはづかしめに、遂にたまりかねて、江戸城内にもかゝはらず義央に斬つけた。これはその時の樣子で、逃げる義央、二度目を斬つけようとあせる長矩、後からだきとめるのが梶川與惣右衛門である。

能樂

赤穗義士の討入

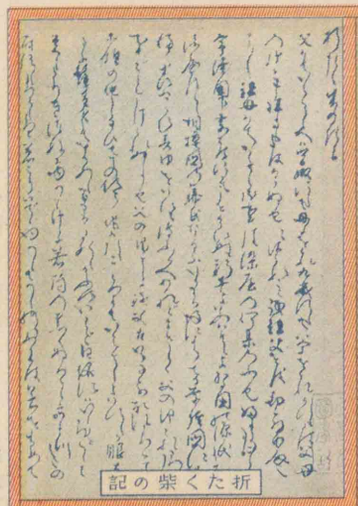
元祿十四年十二月十五日（主人長矩の切腹後一年目）赤穗（兵庫縣）の舊藩士等四十七人は大石良雄を中心に折から降りつもる雪の中を、吉良の邸に討入り首尾よく主君の仇吉良義央を討ちとつた。この繪は今吉良の邸に討入るところである。

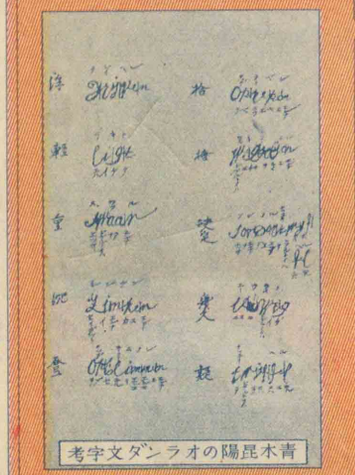
赤穗義士の引上げ

主君の仇を首尾よく報じた四十七士は、義央の首を主君の墓にそなへようと、夜あけ頃の靜かな江戸永代橋を通るところを描いたもので、先頭が良雄である。

新井白石

德川吉宗





新井白石

新井白石の苦學

少年の頃より刻苦勉勵の結果、六代將軍家宣に仕へて信任をうけ、七代家繼の代まで仕へて政治にあづかり、いろ〳〵な改革をして功多く、又多くの書物を著して世を益することが大であつた。

貧しい中に育つた白石は苦しい思ひの勉强をつゞけ、眠くなると寒中でも水をかぶつてはげんだといふ。後木下順庵を師として遂に學德すぐれた人となつた。

新井白石朝鮮使節と應接す

朝鮮は將軍の代がはり毎に使を送つて祝ひをのべる例になつてゐたが、幕府はこれに對し勅使以上のもてなしをなす等我が國の尊嚴をきづけるやうなことがあつたので白石は自ら應接して立派な態度に改めた。

德川吉宗

德川吉宗産業をすゝむ

德川幕府中興の英主といはれるだけに吉宗はあらゆる方面で改革するところが多かつたが、中でも産業をすゝめた事蹟はその甚しいものであらう。此の絵は將軍自身檢地して荒地の開拓に當つてゐるところである。

紀伊家より入つて八代將軍となつた吉宗はその頃まだ殘つてゐた前代の惡風を改め、文武をすゝめ、質素儉約を奬勵し、産業をすゝめるなど大いに善政を行つた。

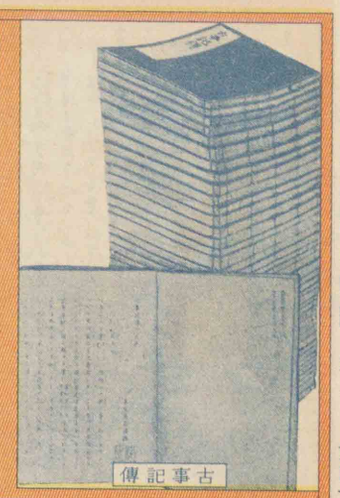
德川吉宗の鷹狩

武藝をすゝめた吉宗はどこまでも質實で剛健なものを好み、遊び一つにもそれを喜んだ。そのため鷹狩、水泳、馬術などが盛んになつた。この絵は一日武藏野に出かけて鷹狩をしてゐる吉宗を描いたものである。

松平定信

本居宣長

鈴の家本居宣長旧宅


古事記傳

沖契

賀茂眞淵

松平定信筆海防の歌

松平定信

定信は吉宗以來漸く亂れ始めやうとした世の中を昔にかへさんものと、文武をはげまし、質素儉約をすゝめ大いに功をたてた。後白河樂翁と號して多くの書物も著した。

定信皇居を造營し奉る

この頃京都に大火があつて捉れ多くも皇居を燒失した。時に定信は自身京都に上り古い法式をしらべ自ら工事をさしづして立派に御造營申し上げた。

松平定信海岸を巡視す

この頃ロシヤの使が根室に來て始めて通商を請ふてから四圍の形勢がおだやかならないものがあつたので、定信は色々の困難をしのんで伊豆、相模の海岸を巡視して海防をげんにした。

本居宣長

伊勢の松坂で生れ、始め醫師を志したが後國學を志し賀茂眞淵を師として遂に古事記傳を大成して我國文學上に不滅の功をのこした人である。

平田篤胤

宣長弟子で國學者としてそのあとをついだ人である。

本居宣長古事記傳を著す

古事記は奈良時代に出來た我國で最古の歴史書であつたがそれだけに大昔の言葉でつゞられ、きはめて困難なものであつた。一頁の説明をするに一ケ月もかゝつたこともあつたといはれてゐる。

この人は自分の家の二階の四疊半（今も保存）で靜かに古事記傳の大著述をしてゐるところで、退屈になると床の鈴をならして心をなぐさめたといはれてゐる。

高山彦九郎

高山彦九郎御所を拜す

高山彦九郎

蒲生君平

蒲生君平

蒲生君平皇陵のすたれたるを悲しむ

竹内式部尊王の大義を説く

高山彦九郎

上野（群馬縣）の人で大變孝行な人であつたが、後、太平記といふ本をよんで皇室の尊いことをさとり、廣く全國をまはつて尊王の大義をといた。

寛政の三奇人の一人に數へられてゐる。

高山彦九郎御所を拜す

高山彦九郎は諸國をめぐりあるいて度々京都に上つたがそのたびに三條大橋の上からはるかに皇居を拜し、忠誠の至情をあらはした。ことに夜など橋上から御所の御燈火のもれるのを見た時は涙を流して御衰微を悲しんだといはれてゐる。

高山彦九郎

高山彦九郎の墓

蒲生君平

下野（栃木縣）の人で勤王家として名高く、諸國の御陵をめぐつて歴代御陵のあれはてたるをなげき、山陵誌を著はして幕府にさし出した。

彦九郎と同じく寛政の三奇人の一人に數へられてゐる。

蒲生君平皇陵のすたれたるを悲しむ

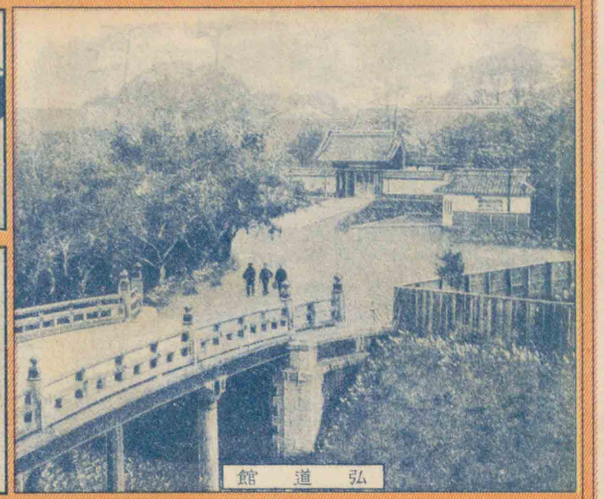
圖は蒲生君平が佐渡の順德上皇の御陵にお參りして、その荒廢してゐる有樣を見て非常に悲しんで、地にふして天皇の御靈を拜してゐるところである。

攘夷と開港（其の一）

德川齊昭

陸上の諸使國

林子平の画いたオランダ人宴會の圖


弘道館

德川齊昭の墓

外國船の渡來

攘夷と開港

德川齊昭

水戸の藩主で先祖光圀の志をうけつぎ、尊王の心あつく、又大いに國家の爲を思つて攘夷の論をとなへて士氣を奮つた、水戸烈公とは此人のことである。

林子平海國兵談を著す

この圖は千平が書齋で海國兵談を著してゐるところである。その頃には珍しい洋書・地球儀などが置いてあるのを見てほしい。海國兵談は全部十六卷あつて、軍艦や大砲のことから、戰爭の仕方までかいてある。

海國兵談の一部

この本は寛政三年子平の五十四歳の時に出したが、書きはじめたのはずつと以前からで、海防の必要を説いたものである。

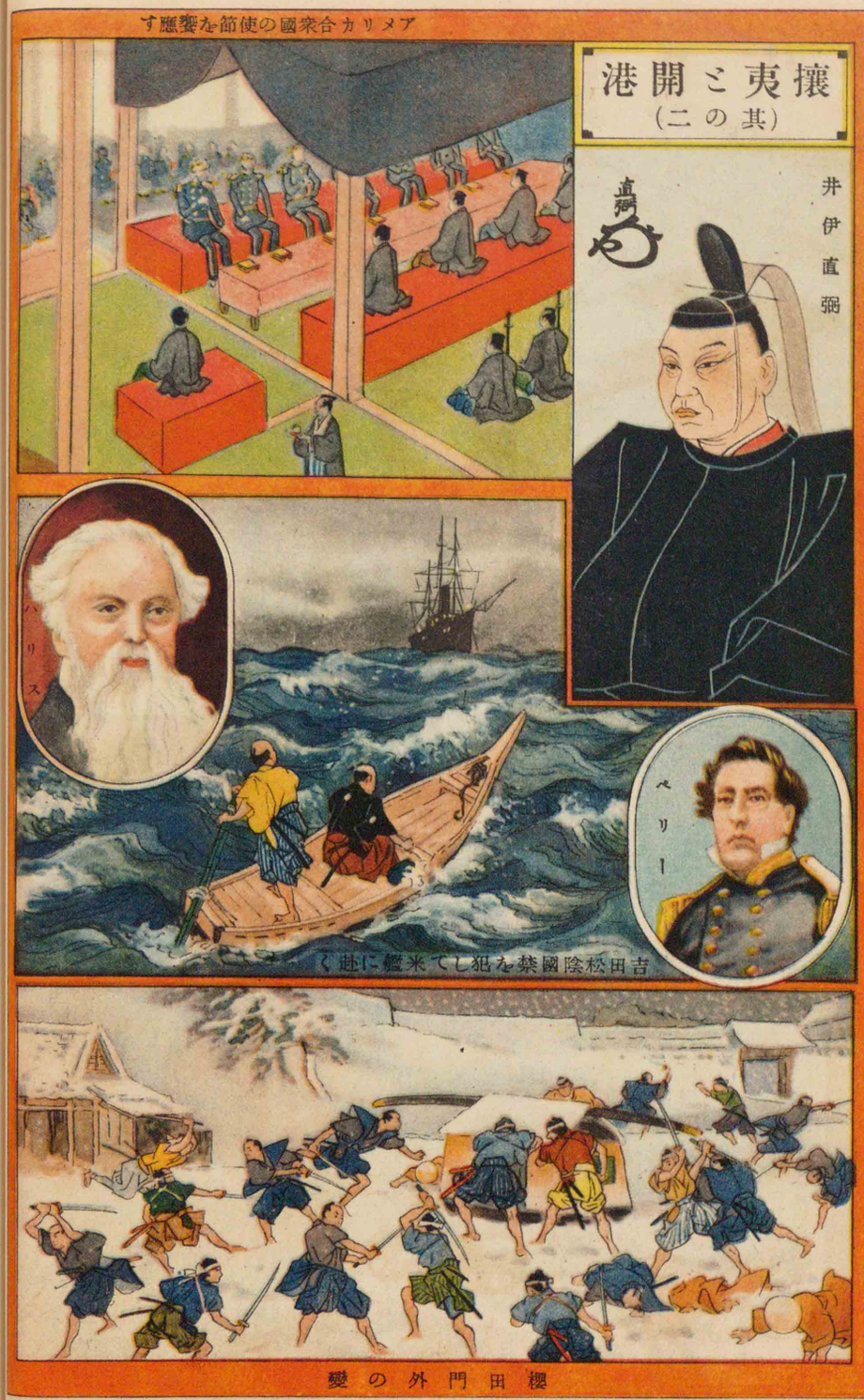
歐米諸國の東漸

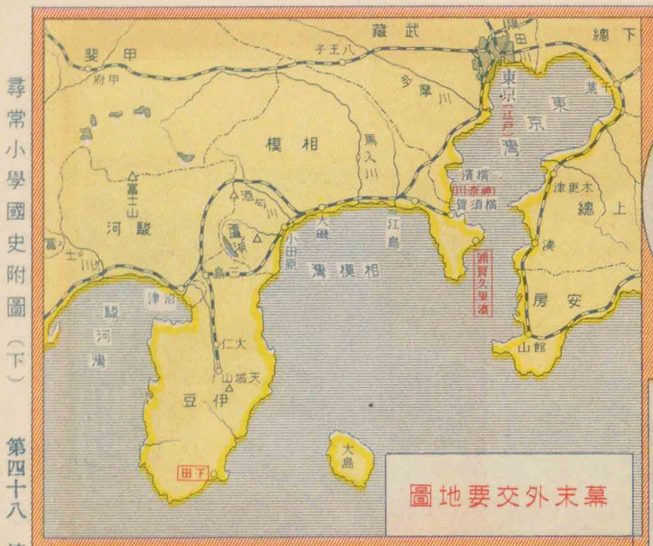
我國に向つた矢印に氣をつけてほしい。寛政年間にはまだ形は見えなかつたが、早く林子平は是を知つて國防をとなへたのである。そしてこの矢は十年二十年の後に色々な形になつてあらはれ、遂に幕府もこれらのために滅んだのである。

德川齊昭大砲を鑄る

外國船がしきりに我國の海邊をおびやかすやうになつたので、齊昭は攘夷の必要なことを說いた上に、自ら大砲をつくつて七十四門を幕府に獻じたので、さすが幕府もびつくりしたゐはれてゐる。

攘夷と開港
（其の二）





渡邊崋山

高野長英

吉田松陰

松下村塾

攘夷と開港

井伊直弼　彦根（滋賀縣）の藩主で後に幕府の大老となつて、むづかしい外國との交渉は勿論、國内のことまで一切の政事をひきうけた人である。遂に江戸城櫻田門外で、水戸の浪士におそはれて惜しい最後をとげた。

アメリカ合衆國の使節を饗應す　合衆國の使節ペリーが軍艦四隻をつれて、不意に江戸に近い浦賀にあらはれて、國民に夜もねられぬほど心配をさせたのは紀元二五一三年（嘉永六年）であつた。その翌年約束により再度來て通商を求めたので、幕府は久里濱（神奈川縣）で會見をして、遂に米國と和親條約をむすんだのであつた。この圖は其使節を饗應してゐるところである。

ペリー　アメリカ合衆國最初の使節として我が國に來た人である。

吉田松陰國禁を犯して米艦に赴く　日本人で外國に行くことは幕府がかたく禁じてゐたにかゝはらず、松陰は海外の事情を知るために金子重助と共にひそかに米艦に赴いたが、遂に許されないでかへつて幕府に捕へられた。舟の中にすはつてゐるのが松陰である。

ハリス　和親條約をむすんだので、下田にやつて來たアメリカ合衆國最初の總領事である。

櫻田門外の變

一、勅許をまたないで通商條約をむすび國を開いた。

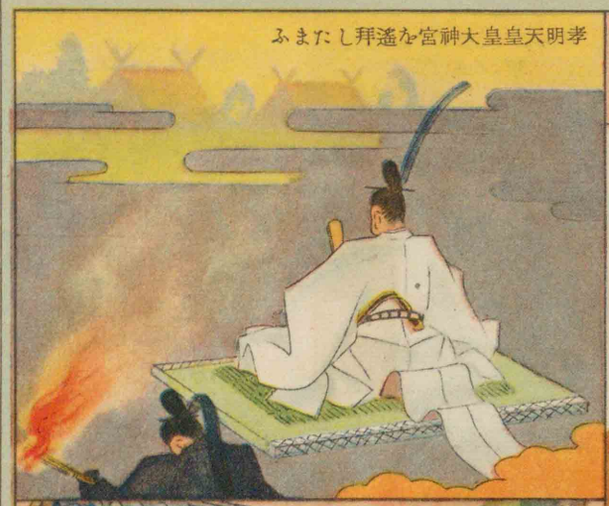
二、幕府の方針に反對する人をきびしく罰した。（安政の大獄）

三、一般の望む慶喜を將軍とせず、紀伊家から家茂將軍を迎へたこと。

こんなことで井伊直弼は天下の人々にはげしい怒と憎しみを受け、遂に水戸の浪士等のため萬延元年三月三日登城の途でころされた。

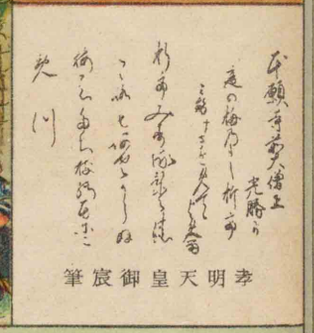
孝明天皇

孝明天皇皇大神宮を遙拜したまふ



蛤御門の變

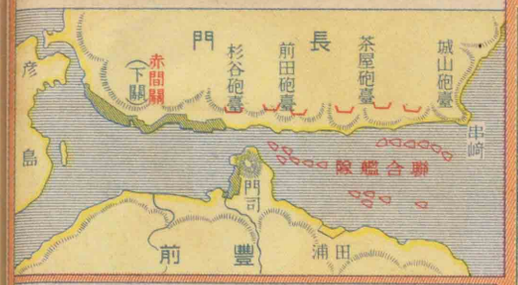
孝明天皇



孝明天皇御宸筆

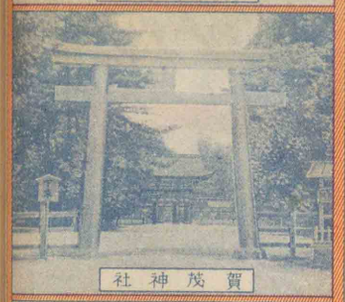
四國聯合艦隊下關砲台を砲擊す

四國聯合艦隊下關砲方地擊地圖



蛤御門

七卿落



賀茂神社

長州征伐

孝明天皇

天皇は御英邁にましまし最も世の中のさはがしい幕末多難の時に立たれ、御身をもつて國難を救はうと御思召され日夜御心勞遊ばされたことはまことにおそれ多いきはみであつた。

孝明天皇皇太神宮を遙拜したまふ

天皇は國難を何とかしてきりぬけられるやうにと、勅使を伊勢神宮につかはされ、その歸京まで毎夜お庭に出られて、皇太神宮を御遙拜あそばされた。この繪は御遙拜中の天皇をえがき奉つたものである。

蛤御門の變

京都に於ける攘夷論は俄に變つて溫和論となつたため、攘夷を强く主張してゐた長門（山口縣）藩主等の入京を禁じられた。

これがためその藩士等は其の罪のむじつを訴へるべく京都に再び上つて來たが、これを防いだ薩摩・會津の兵と各所で戰つて破れた。

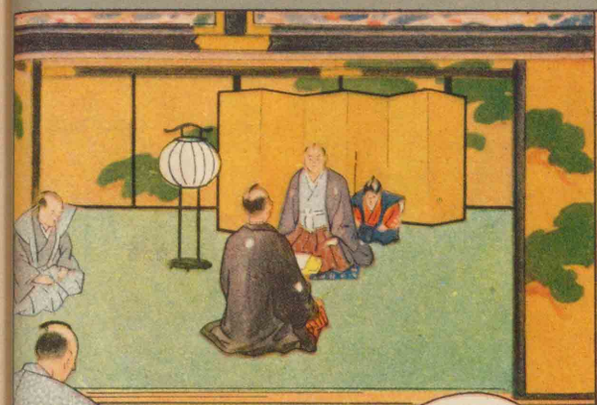
中でも蛤御門の戰は最も激しかつた。

四國聯合艦隊下關を砲擊す

攘夷論を强く主張してゐた長門藩では五月十日攘夷實行の日になると、下關海峽を通つた外國船を砲擊して攘夷のさきがけをしたが、約一年の後其の責任を問はうとして英・米・佛・蘭の四國聯合艦隊は攻め來つて下關を砲擊した。

この繪はその時のやうすを描いたものである。

武家政治の終



後藤象二郎德川慶喜に大政奉還を勸く

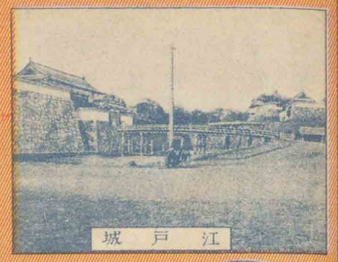
德川慶喜

西郷隆盛と勝安芳との會見

山内豐信

白虎隊

彰義隊



江戸城

有栖川宮熾仁親王

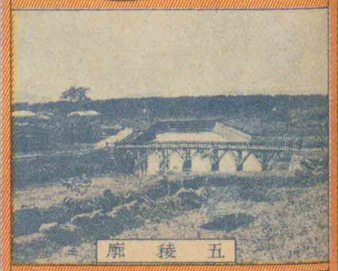
小松宮彰仁親王

西郷隆盛

勝安芳

松平容保

榎本武揚



五稜廓

武家政治の終

德川慶喜

德川齊昭の子で家茂の薨後入つて十五代將軍となつた。當時倒幕の聲全國に滿ちへた幕府最後の難局にあつてよく時勢を見て大政奉還を決し王政復古を容易ならしめた功は決して小ではない。

後藤象二郎將軍慶喜に大政奉還をすゝむ

慶應三年九月土佐の藩士後藤象二郎は前藩主山内豐信の命をうけて、京都二條城で將軍慶喜に大政を奉還すべきことを勸めた。

二人の間にあるのは大政返上をすゝめる建白書である。

山内豐信

豐信は土佐の藩主として慶喜に大政奉還をすゝめた人である。

西郷隆盛と勝安芳の會見

明治元年三月十三日江戸芝田町の薩摩別邸で官軍の參謀西郷隆盛と幕府陸軍總裁勝安芳とが會見して江戸城明渡を平穏の中に行ひ百萬の士民を戰亂の巷から救つたのである。

彰義隊

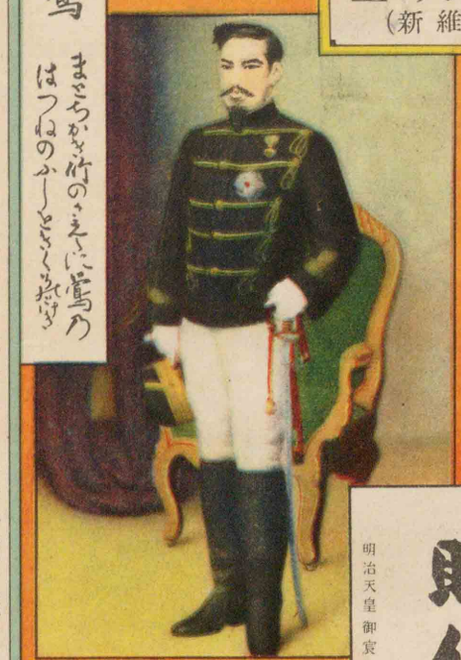
幕府の舊臣等は恭順を示してもなほ順逆をあやまるものがあつて彰義隊を組んで上野に集り官軍と最後の戰をこゝろみたが遂に官軍のためにうち破られた。

圖は明治元年五月十五日江戸上野黑門口に於ける戰鬪を描いたものである。

白虎隊

會津藩主松平容保等奥羽の諸藩は若松城によつて官軍に反いたので之を攻めて打破つたが、此時藩の少年組白虎隊は主君へ最後の御奉公と勇ましく戰つて生殘つた十六名、飯盛山上にのぼり「今はこれまで」と一同城を拜して自刄して果てた。明治元年八月二十三日のことである。

明治天皇
（明治維新）


明治天皇

昭憲皇太后

萬
まごころかぎりのさえに萬の
はつねのふしとさくらけり

山時鳥
[illegible]

睦仁
明治天皇御宸筆

三條實美

岩倉具視

大久保利通

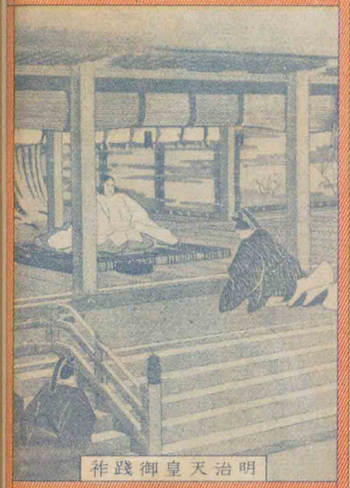
木戸孝允

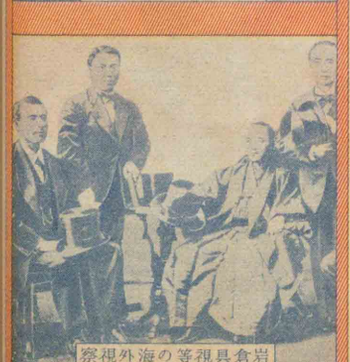
明治天皇東京に行幸したまふ

明治天皇五箇條の御誓文を宣せらる

五箇條の御誓文

一、廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ
一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ
一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス
一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
一、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ


明治天皇御踐祚


岩倉具視等の海外視察

明治維新

御歌

昭憲皇太后
昭憲皇太后、御名は美子。一條忠香の第三女。嘉永三年御誕生。明治元年十二月皇后として立たせられてから、よく明治天皇をお助けになり、常に國民に範を示され、國民はその御高德をしたひたてまつつた。大正三年四月崩御あそばさる。

明治天皇
明治天皇、御名は睦仁、孝明天皇の第二皇子。嘉永五年十一月三日御降誕。御年十六歳で御踐祚あらせられてより、明治四十五年七月三十日崩御遊ばされるまで四十五年間日本は誠に多事多難であつた。しかも此の日本をよく御すべになつて、世界的の大日本帝國となされたのである。國民こぞつて仰ぎまつるのもまことに當然である。

明治天皇御宸筆

明治天皇東京に行幸したまふ
王政復古の大業成り、明治元年十月、天皇は東京（江戸）へ行幸あらせられ、十二月京都に御還幸、再び二年三月東京へ行幸、永くこゝを都としておとゞまりになつた。この圖は天皇が江戸城へ御入りになる御有樣をうつしたものである。

大久保利通
維新の功臣で鹿兒島藩士、征韓論では隆盛と意見を異にした。

木戸孝允
長門藩士で、西鄉、大久保と並んで維新の三傑と呼はれる。

三條實美
早く尊王攘夷の論を唱へ、一時長門へ落ちたが後重用された。

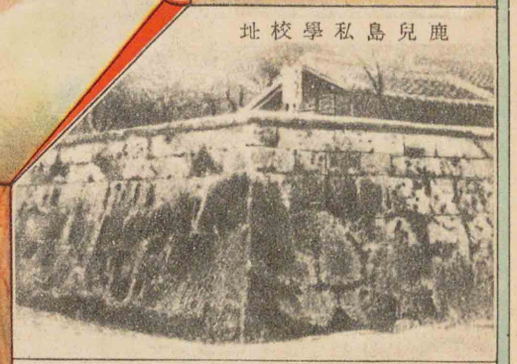
岩倉具視
維新の功臣で明治四年歐米諸國に使して歸朝し、非征韓論を唱へた。

明治天皇
（西南の役）

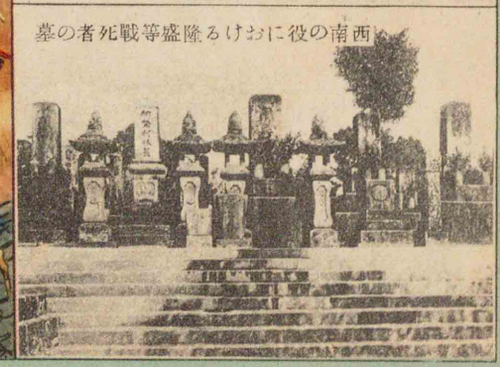
征韓論

谷干城

熊本城攻圖


鹿兒島私學校址

田原坂の戰


西南の役における隆盛等戰死者の墓

西南の役

谷干城

西南の役に熊本鎮臺司令官として勇名を天下にとゞろかした人である。後色々の重職を經て大臣、貴族院議員となり、明治四十四年七十五歳で薨じた。

征韓論

維新の大業成つて外國と和親する方針を定めて先づ朝鮮にその由を通じたが朝鮮は無禮なる態度で度々我に對したので西郷隆盛等は征韓論を唱へたが、歐米視察より歸つた岩倉・大久保等の人々は内治を先にせねばならぬことを說いて征韓論に反對したから隆盛等は官を辭して郷里に歸つた。

熊本城攻撃

熊本城は加藤清正が心をこめて築きあげた天下の名城である。薩軍は一擧にこの城をおとさんものと、今必死の總攻擊を加へてゐるところである。

しかし是は駄目で城は容易に陷らなかつたので其後は攻圍に止め、他は援けに來た官軍に向つたのであつた。

鹿兒島私學校址

現在の縣立鹿兒島病院が私學校の址で、西南の役にはこの學校の生徒が隆盛を擁して兵をあげたのである。

西郷隆盛等の墓

淨光明寺内の墓地で、隆盛の墓を中央に薩軍將士の墓がならんでゐる。

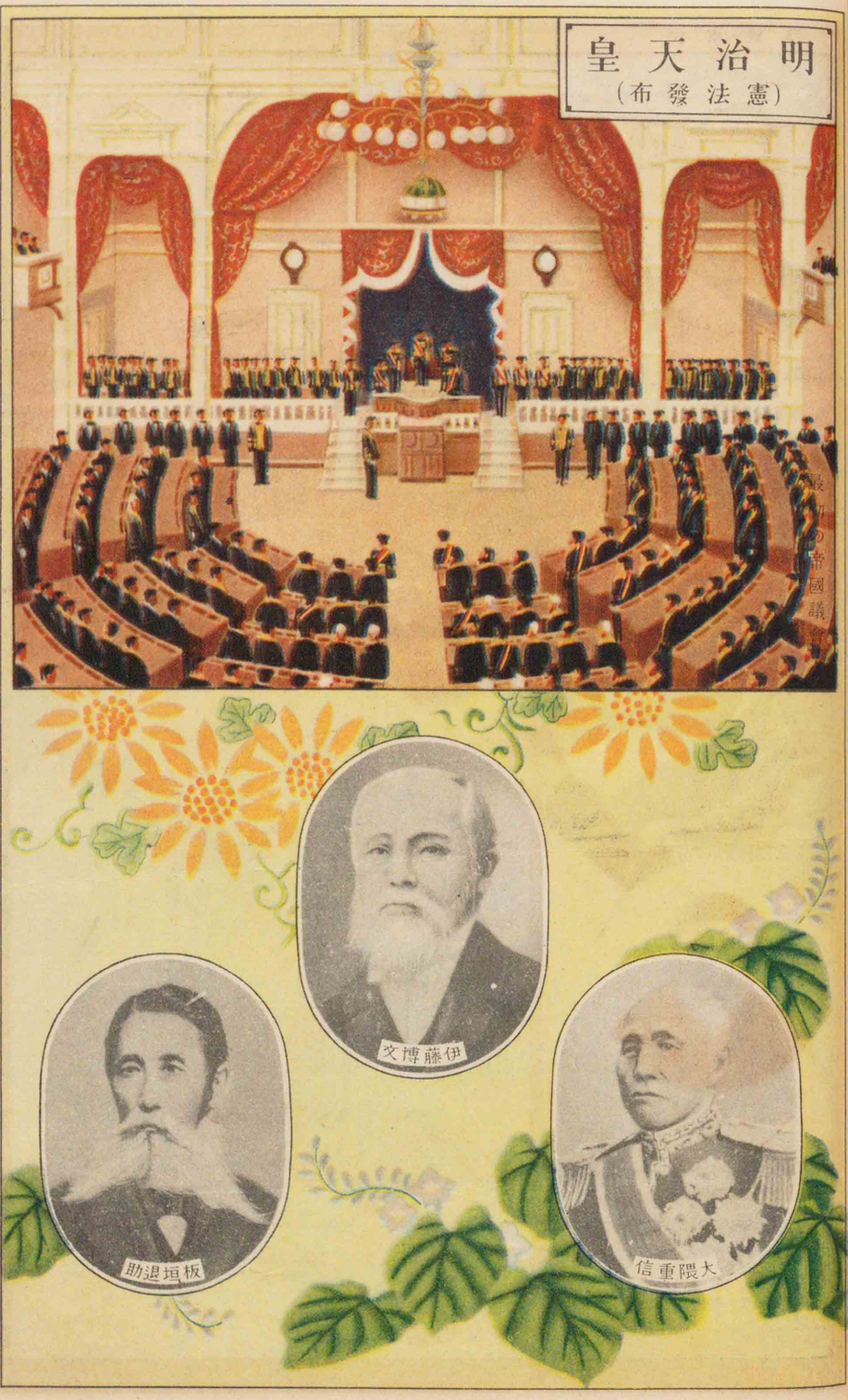
田原坂の激戰

田原坂は西南の役中最も激戰のくりかへされたところで、惡戰苦鬪十六日に亙り、多數の死傷者を出したので一名地獄峠とよばれた程であつた。薩軍の拔刀隊に對し官軍も拔刀隊をつくつて戰つた。

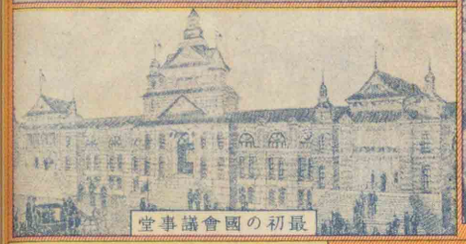
佐野常民

田原坂激戰の跡

明治天皇（憲法發布）



新國會議事堂


最初の國會議事堂

憲法制定御前會議

明治天皇（憲法發布）

最初の帝國議會

繪は明治二十三年十一月廿九日明治天皇が貴族院議院の開院式にのぞませられた光景を寫し奉つたものである。

正面に王座があり、今勅語を拜受すべく進み出てゐるのは貴族院議長伊藤博文で、正面左方の階段の下に立つてゐるのが衆議院議長中島信行、又上の段左右に並んでゐるのは各國務大臣と政府委員、議席の向つて左は衆議院議員、右は貴族院議員である。

伊藤博文　舊長門藩士で松下村塾に學んだ人。明治時代隨一の大政治家で、總理大臣に任せられること四回、最初の樞密院議長・貴族院議長韓國統監に歷任した。

板垣退助　舊高知藩士、自由民權の祖ともいはれ、又國會開設を說へて自由黨を組織した。後內務大臣となつた。

大隈重信　改進黨を組織し、又早稻田大學を創めた人。その外務大臣にある時條約改正に關して兇徒に襲はれ片足をなくした。後總理大臣となつた。

歷代內閣總理大臣表

（數字ハ內閣成立年月）

1 明治一八・二・二三　伊藤博文
2 明治二一・四・三〇　▲三條實美
3 明治二二・二・一四　山縣有朋
4 明治二四・五・六　松方正義
5 明治三五・八・八　▲黑田清隆
6 明治二九・九・八　松方正義
7 明治三一・一・一二　伊藤博文
8 明治三一・六・三〇　大隈重信
9 明治三二・一・八　山縣有朋
10 明治三三・一〇・九　●西園寺公望
11 明治三四・六・二　桂太郎
12 明治三九・一・七　西園寺公望
13 明治四一・七・一四　桂太郎
14 明治四四・八・三〇　西園寺公望
15 大正元・一二・二一　桂太郎
16 大正二・二・一〇　山本權兵衛
17 大正三・四・二六　大隈重信
18 大正五・一〇・九　寺內正毅
19 大正七・九・二九　▲原敬
20 大正一〇・一一・一三　高橋是清
21 大正一一・六・一一　▲加藤友三郎
22 大正一二・九・二　山本權兵衛
23 大正三・一・七　清浦奎吾
24 大正一三・六・一一　加藤高明
25 大正一四・八・一一　▲若槻禮次郎
26 大正一五・一・三〇　若槻禮次郎
27 昭和二・四・二〇　田中義一
28 昭和四・七・二　×濱口雄幸
×幣原喜重郎
29 昭和六・四・一四　若槻禮次郎
30 昭和六・一二・一三　▲高橋是清
31 昭和七・五・二六　齋藤實
32 昭和九・　岡田啓介

（表中●印ハ兼任　▲印ハ臨時　×印ハ臨時代理）

黃海の戰　伊東祐亨

明治天皇
（明治二十七八年戰役）

廣島大本營

下關の講和會議

李鴻章

清國

遼東半島

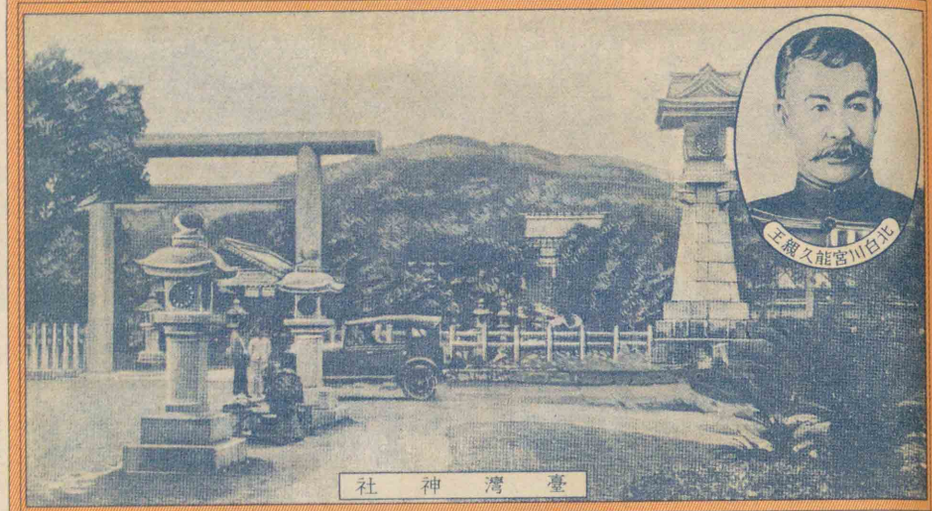
山東半島

黃海

朝鮮

日清戰役要地圖

第一軍進路
第二軍進路
日本艦隊進路
清國艦隊進路



武神

北白川宮能久親王御眞筆

明治二十七八年戰役

黃海の戰

明治二十七年九月十七日我海軍は黃海に於て清國北洋艦隊の主力と相會し、機は熟して砲火は交へられた。激戰數時。我軍大勝利となつた、これより又黃海で支那の軍船を見ることなく陸軍の行動を容易にしたことは甚大であつた。

伊藤祐亨　日清戰役の我聯合艦隊司令長官。後元帥伯爵を賜り、大正三年薨去した。

廣島大本營

日清戰役中大本營を、廣島第五師團司令部にすゝめられた。この繪は當時の質素な大本營の御樣子をうつしたもので、まことに畏き極みである。

下關講和會議

明治二十八年四月山口縣下關市の春帆樓に於て我國よりは伊藤博文、陸奧宗光等清國よりは李鴻章等の全權が、會して左の講和條約が締結された。

一、朝鮮の獨立をみとめること。
二、遼東半島・臺灣・澎湖島を日本に讓ること。
三、償金二億兩（我が國の三億圓）を日本に支拂ふこと。

李鴻章　支那の大政治家として有名である。我國と天津條約・下關條約を結んだ人であつた。

明治二十七・八年戰役要地圖

各軍の大將は、

第一軍（陸軍大將山縣有朋）…民政廳を安東に置く。

第二軍（陸軍大將大山巖）…行政廳を金州城内に置く。

聯合艦隊（海軍中將伊藤祐亨）

第一、二軍は後合して北京へ追擊して牛莊・田莊臺・營口等を占領した。

條約改正
明治三十七八年戰役

陸奥宗光　維新以來の宿志であつた條約改正を最後に成しとげた功勞者で、時の外務大臣であつたばかりでなく、先には下關講和會議に於ける全權として、伊藤博文と共に國家の爲に盡した功も大きい。

大山巖　明治三十七八年戰役に、元帥陸軍大將大山巖は滿洲軍總司令官に任せられ、その率ゐる軍は三十八年三月奉天の大會戰で大いに敵を破つた。

東郷平八郎　明治三十七八年戰役に海軍中將東郷平八郎の率ゐるわが聯合艦隊は三十八年五月敵艦を日本海にむかへ擊ち、是を全滅せしめた。

旅順港口の閉塞　敵彈雨下の中を進んだ。探照燈は目もくらむばかりだ。その中に我沈勇な決死隊は活動した。港口をふさぎ敵艦を封じこめるためである。繪はうまく船を沈めて引あげるところである。
第一回　二月二十四日（五艘）
第二回　三月二十七日（四艘）
第三回　五月三日（十二艘）

廣瀨中佐　中佐廣瀨武夫は大分縣の人、軍神とあがめられてゐる。

北清事變　山東省におこつた義和團の勢は日ましに加はつて、清國政府までその力にたのむ程であつた。そこで北京に公使館を置く列國は、聯合軍を組織して之が鎭撫に向つた。圖はその時の有樣で東直門を突入した我軍とそれにつゞく英・米・佛軍である。

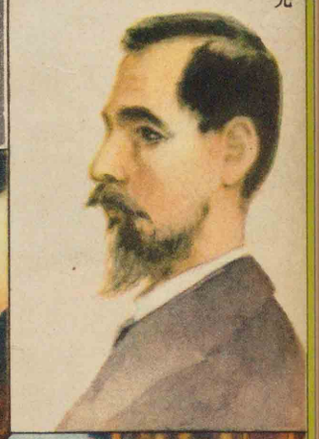
水師營の會見　旅順開城の約成つて、明治三十八年一月五日この會見は行はれた乃木大將とステッセル、中央大將の右側が通譯である。攻むるも守るも又つらい幾月かであつた。今凡てを過して相會した、二將軍の心の中はどうであつたか。（讀本の水師營の會見を思出せ）

奉天大會戰　時あたかも冬季で、一望たゞ廣々たる大平野、刈り殘された高粱も寒さにふるふ。火のあがるあたりが奉天城であらう、左にそびへるのは喇嘛塔である。ここで忠勇義烈な我が軍が露國の大軍を見事に擊破し大勝利を得て敵將クロパトキンを敗走せしめたのである。

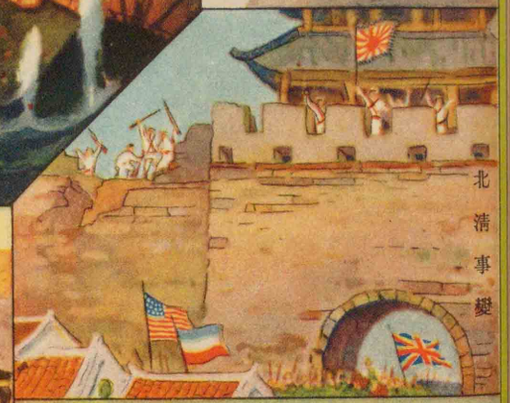
明治天皇
（條約改正　明治三十七八年戰役）

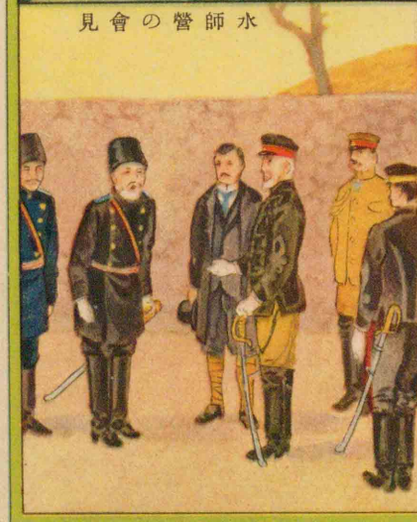
東郷平八郎

大山巖


陸奥宗光

廣瀨中佐
旅順港口の閉塞

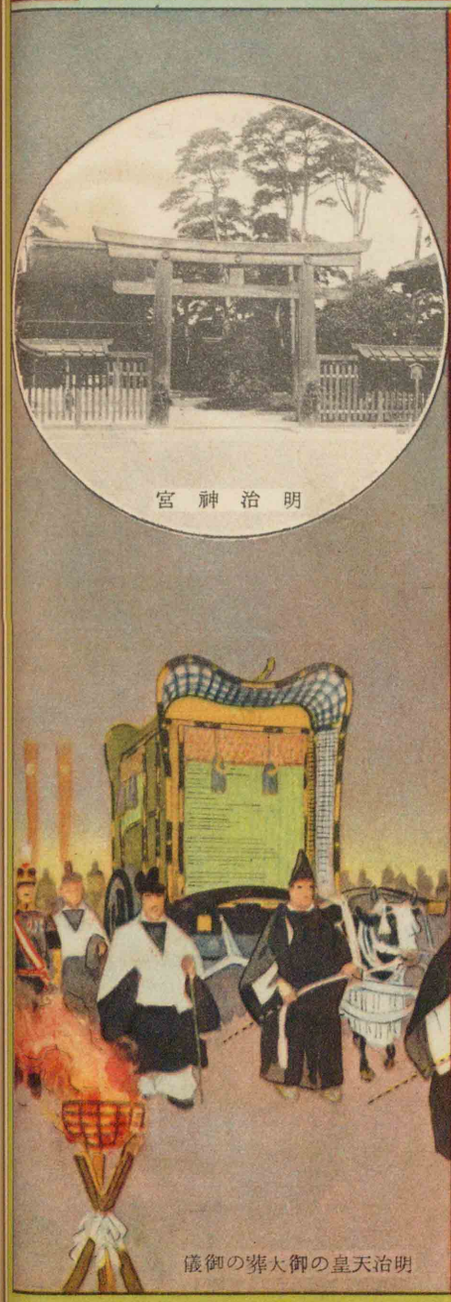

北清事變


水師營の會見

奉天大會戰

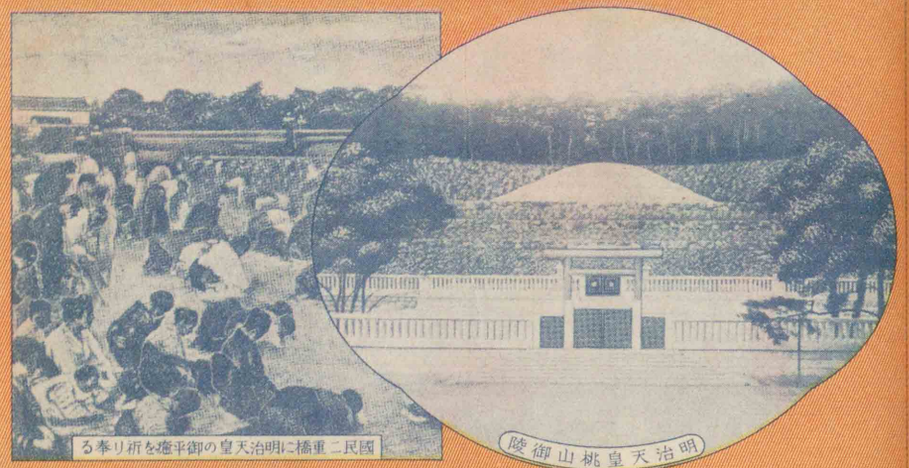
明治天皇（韓國併合）

京城南大門に於ける併合祝賀



明治天皇の御大葬の御儀

明治天皇（天皇の崩御）



韓國併合

朝鮮神宮

我國は韓國と喜びの中に併合した。是はまた韓國の大きな「幸」であつたと共に、明治天皇の御聖德によるものであつた。そこでここへに朝鮮の守護神として明治天皇をお祀りしたのが、京城の朝鮮神宮である。

李王殿下

朝鮮總督府

妃死前の乃木大將夫妻

京城南大門に於ける併合祝賀

これは明治四十三年八月二十九日韓併合記念日の當日、京城南大門附近に兩國民の歡喜してゐる有樣である。

天皇の崩御

明治神宮

新しい世界的な大日本は明治天皇の御代に生れたといつてもよい。そこで明治天皇と昭憲皇太后との御靈を新日本の守りとしてここへにしづまりまします土地をえらび、御祀り申上げたのが東京市代々木の明治神宮である。

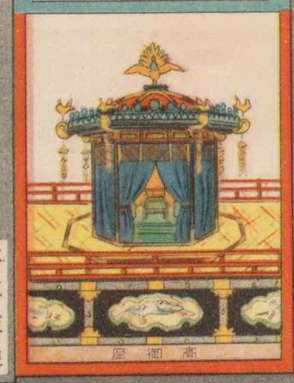
明治天皇の御大葬の御儀

大正元年九月十三日明治天皇の大喪儀を東京青山練兵場でとり行はせられ、翌九月十四日京都の伏見桃山の御陵地にお移し申し上げ、十五日朝無事御斂葬のことが終つた。

圖は御靈柩御通過の有樣を拜寫したものである。

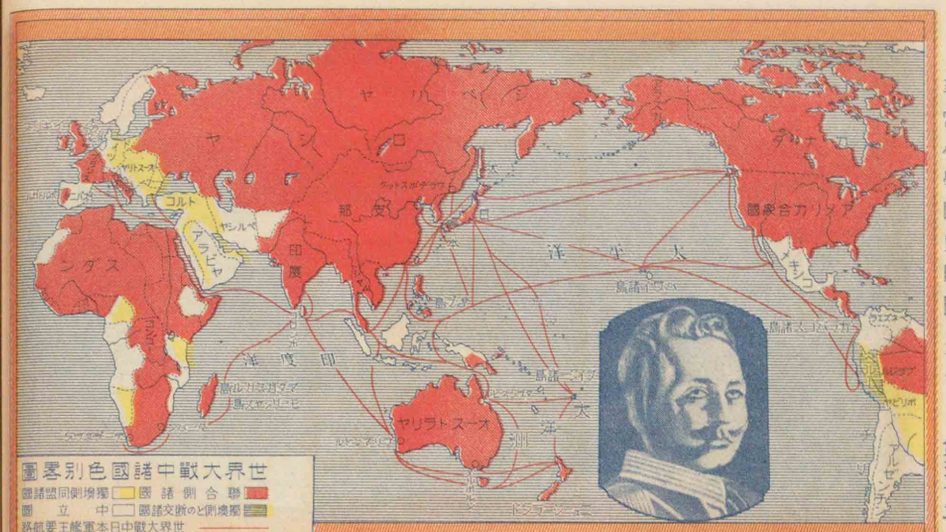
大正天皇

大正天皇



高御座

皇太后陛下



大正天皇

御名嘉仁、明治天皇第三皇子にましまし明治十二年八月三十日御降誕、大正元年七月三十日御踐祚あそばされ大正十五年十二月二十五日御崩御あそばされた實齢御四十八歳

高御座

御即位、又は朝賀等朝廷の大儀に紫宸殿の中央にかざりすゑられる天皇の御座で、形は鳳凰に似てゐる。

皇太后陛下

大正天皇の皇后、御名は節子、公爵九條道孝第四女にましまし明治十七年六月二十五日御誕生あそばさる。

マルタ島の我が海軍根據地

英領マルタ島はシシリー島の南にある小島で、主としてわが驅逐艦をして警備せしめたが、英佛海軍と協力してその活動はめざましいものがあつた。

西園寺公望

牧野伸顕等が出席した大正八年六月遂に平和條約が結ばれたのである。この時又世界平和のため國際聯盟が生れた。

對獨講和會議（平和會議）

歐洲大戰後各國の全權委員はパリーのベルサイユ宮殿に集つて平和會議を開いた。我が國から全權として西園寺公望、

大正天皇の御大葬

大正十五年十二月二十五日天皇の御容體にはかにあらたまりて遂に崩御遊ばされた。

實齢御四十八歳

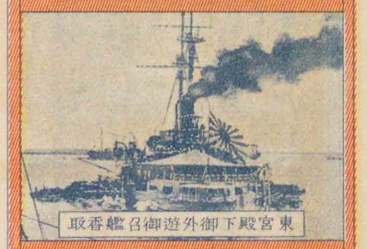
そこで昭和二年二月七日大喪儀を東京新宿御苑にてとり行はせられ、ついで多摩御陵に御斂葬申し上げたのである。

加藤友三郎

ワシントン會議

大正十年世界の主なる國即ち日本、イギリス、アメリカ合衆國、フランス、イタリヤ、支那の各國がアメリカ合衆國の首都ワシントンに集つて軍備縮少の會議を開いた。我が國は當時の海軍大臣加藤友三郎、貴族院議長徳川家達等を全權として會議に加はられた。

東宮殿下の御外遊

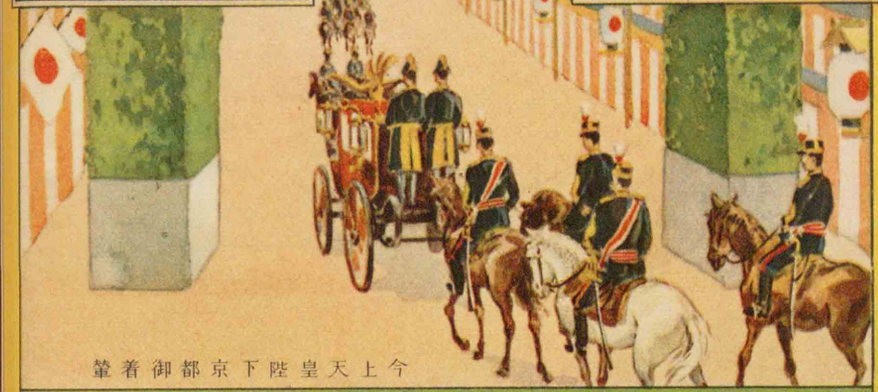


東宮殿下御外遊御召艦香取

今上天皇

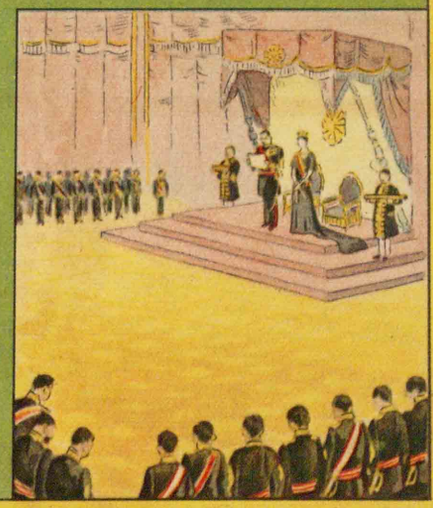
今上天皇陛下

皇后陛下


今上天皇陛下京都御着輦

若槻禮次郎

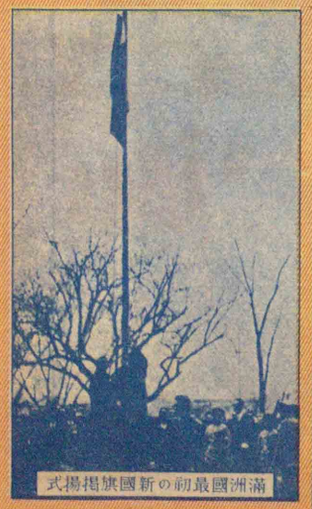
ロンドン會議


今上天皇陛下朝見の御儀を行はせたまふ

本庄軍司令官

滿洲事變我が軍の攻擊

松岡全權


滿洲國最初の新國旗揭揚式

今上天皇陛下

皇后陛下

皇后陛下は御名良子、久邇宮邦彦王第一王女であらせられ、明治三十六年三月六日の御降誕であらせらる。

今上天皇陛下

第百二十四代今上天皇陛下は御名裕仁、大正天皇の第一皇子であらせられ、明治三十四年四月二十九日の御降誕であらせらる。

今上天皇陛下京都御着輦

昭和三年十一月十日京都御所紫宸殿において御即位式の大儀を擧げさせ給ふ。國民こぞつて聖代のいやさかへに榮えますことを祝ひ奉つたのである。

圖は特別公式鹵簿で京都御所に向はせ給ふ所である。

今上天皇陛下朝見の御儀を行はせたまふ

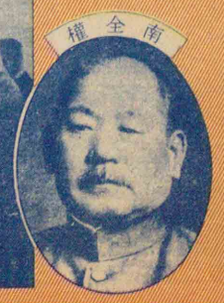
朝見の儀は新天皇陛下最初の大儀である。昭和元年十二月二十八日宮中正殿にてあげさせられた。今、天皇皇后兩陛下御揃ひにて、各皇族文武百官の侍立する正面玉座の御前に立御遊ばされ、玉音もほがらかに勅語を賜ふ所である。左に御劍、右に御璽を捧持する侍從をひかへさせられ、おごそかに拜せられる。

ロンドン會議

昭和五年一月ロンドンに於て日、英米、佛、伊等の諸國が相會して軍備縮少のことを議した。我國からは若槻禮次郎、財部彪等が出席、主に海軍の補助艦の日、英、米三國間の比率について論じ、ロンドン條約なるものをむすんだ。

若槻全權

ロンドン會議に全權として出席した若槻禮次郎である。



第三十三　織田信長

題目	天皇	紀元年數	主な事柄（太字年數は昭和九年を基とす）
	後奈良	二一九四年	織田信長生る。（天文三年）（四〇〇年前）
		二一九六年	豐臣秀吉生る。
		二二〇二年	德川家康生る。
		二二〇三年	ポルトガル人種子島に漂着して鐵砲を傳へた。
		二二〇七年	家康織田家の人質となる。（六歳）
		二二〇八年	家康の父廣忠も信長の父信秀も此年死す。
		二二〇九年	ザビエル鹿兒島に來て、キリスト教を傳へた。
			家康今川家に人質となる。（八歳）
		二二一一年	秀吉遠江の松下之綱に仕ふ。（十六歳）
		二二一三年	平手政秀信長を諫めて死す。
			秀吉尾張に歸る。
	正親町	二二一八年	秀吉信長に仕ふ。
		二二二〇年	信長桶狹間に今川義元を破る。（五月）（三七四年前）
			家康岡崎城に入る。
		二二二一年	家康、信長と親しくなる。（此年川中島の戰）
		二二二四年	信長岐阜に移る。

皇室御略系及諸家系圖

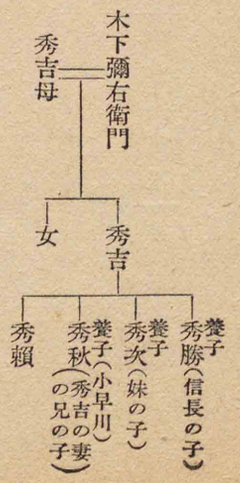
(105)後奈良—(106)正親町—(107)後陽成—(108)後水尾

織田氏略系

越前國織田神社祠官某……信秀—信長—信忠—秀信
　　信雄
　　信孝

題目	天皇	紀元年數	主な事柄
	正親町	二二二七年	信長御料地回復の勅を拜す。
		二二二八年	義昭信長に賴り、信長又義昭を奉じて入京す。(九月)
		二二二九年	信長御所の修理をはじむ。(翌年出來上る)
		二二三三年	義昭追はれ、足利幕府亡ぶ。(七月)(天正元年)
		二二三六年	信長安土城に移る。
			京都の南蠻寺出來上る。
		二二三七年	秀吉中國征伐を命ぜらる。
		二二四一年	安土の南蠻寺出來上る。
		二二四二年	武田氏亡ぶ(三月) 秀吉高松城を水攻めにす。(五月)
			本能寺の變起る。(六月二日) (三五二年前)
			清水宗治自殺、秀吉毛利氏と和す(六月四日)
			山崎の戰・光秀殺さる。(六月十三日)
			明智光春安土城を燒く。(六月十四日)
		二二四三年	賤嶽の戰。(四月) (同四月二十日 中川清秀戰死。 同二十一日 佐久間盛政敗北。 同二十四日 柴田勝家自殺。 五月二日 織田信雄自殺。)
			秀吉大阪城を築きはじむ。

豐臣氏略系



賤嶽の七本槍

福島市松(正則)
加藤虎之助(清正)
加藤孫太郎(嘉明)
平野權平(長泰)
脇阪甚内(安治)
糟屋助右衛門(武則)
片桐助作(且元)

		二二四四年	秀吉家康と小牧長久手に戰ふ。(四月)
			大阪城落成。(八月) (三五〇年前)
			秀吉、信雄と和す。(十月)
			秀吉、家康と和す。(十一月)
		二二四五年	秀吉關白となる。又四國平定す。
			秀吉京都に聚樂第をつくりはじむ。
	後陽成	二二四六年	方廣寺をたつ。
			秀吉太政大臣に任ぜられ、豐臣の氏をいただく。
		二二四七年	聚樂第に移る。九州平定。
		二二四八年	天皇聚樂第に行幸あそばさる。
		二二四九年	秀吉宗氏をして朝鮮に使せしむ。
		二二五〇年	小田原征伐。氏直降る。(全國平定) (三四四年前)
			家康江戸城に入る。(八月)
		二二五一年	秀吉朝鮮征伐の命を出す。(九月)
		二二五二年	征韓軍の先鋒名古屋を出發す。(四月)(文祿三年)
			加藤清正、小西行長等京城に入る。(五月)
			行長平壤占領(六月)。清正會寧占領。(七月)

五奉行

前田玄以
長束正家
淺野長政
石田三成
增田長盛

豐臣氏五大老

徳川家康
前田利家
毛利輝元
上杉景勝
宇喜多秀家

題目	天皇	紀元年數	主な事柄
	後陽成	二二五三年	小早川隆景碧蹄館で明の大軍を破る。（正月）
			明の沈惟敬和を乞ふ。
			秀頼生る。（八月）
		二二五四年	伏見城落成。
		二二五六年	秀吉明使を追ひかへす。（九月）
		二二五七年	秀吉再び朝鮮征伐の命令を出す。（正月）（三三七年前）
			明軍蔚山城を圍む。（十二月）
		二二五八年	秀吉薨ず。（六三歳）（八月）
			泗川の戰（島津義弘）（十月）
		二二五九年	前田利家薨ず。（三月）
			秀吉に豐國大明神の神號を賜はる。（四月）
		二二六〇年	上杉景勝を征伐せんと、家康令を出す。（六月）
			伏見城陷り、鳥居元忠自殺す。（八月）
			關原の戰。（九月十五日）
		二二六二年	秀頼正二位に任ぜらる。（正月）
		二二六三年	家康征夷大將軍に任ぜらる。（慶長八年）（三三一年前）

皇室御略系及諸家系圖

徳川氏略系（一）

（松平氏）泰親―信光―親忠―長親―信忠―清康―廣忠―家康（徳川氏）

家康四天王

井伊直政
本多忠勝
榊原康政
酒井忠次

		二二六三年	秀頼内大臣に任ぜらる。
		二二六五年	家康子秀忠に將軍職をゆづる。
			秀頼右大臣となる。
		二二六八年	家康秀頼に方廣寺の再建をすゝむ。
		二二七〇年	秀頼方廣寺再建に着手す。
	後水尾	二二七一年	加藤清正なくなる。（五十歳）
		二二七二年	方廣寺大佛出來上る。
		二二七四年	同寺の鐘も出來上る。（四月）
			大佛供養の式をとゞめらる。（八月二日）
			大阪冬の陣。（十一月から十二月まで）（三二〇年前）
		二二七五年	大阪夏の陣、豐臣氏亡ぶ。（五月）（元和元年）
			武家諸法度、公家諸法度をさだむ（七月）。
		二二七六年	家康太政大臣となる。（三月）
			翌月薨ず。（七十五歳）（四月）
			東照大權現の神號を賜はる。（七月）
		二二八〇年	秀忠の女和子入内。（東福門院）
		二二八三年	家光三代將軍となる。

徳川氏略系（二）

（一）家康―秀康（福井松平家）
（二）秀忠―（三）家光
和子（東福門院）（明正天皇御母）
義直（尾張家）
頼宣（紀伊家）
頼房―光圀（水戸家）

（四）家綱
綱重―（六）家宣―（七）家繼
（五）綱吉

題目	天皇	紀元年數	主な事柄
第三十八　德川家光	明正（女帝）	二二八九年	僧澤庵等流さる。（紫衣事件）
			東福門院の生みたまふ興子内親王御位につかれ、明正天皇と申上ぐ。
		二二九〇年	洋書の輸入を禁ず。
		二二九四年	日本船の海外渡航を禁ず。
		二二九七年	島原の亂起る（十月）（二九七年前）
			板倉重昌征伐に向ふ。（十一月）
			松平信綱征伐に向ふ。（十二月）
		二二九八年	重昌戰死（正月元旦）
			信綱島原に着く。（正月四日）（五十一歳）
			島原の亂平定。（二月）
		二二九九年	鎖國令を出す。
			國民の海外渡航 外人の日本へ來ることを 禁ず。 オランダ・支那の商人だけは長崎で貿易をゆるす。
第三十九	後光明	二三〇三年	後光明天皇御即位。（十一歳）
		二三〇五年	東照宮の宮號を賜はる。
		二三一一年	將軍家光薨ず。（四十八歳）

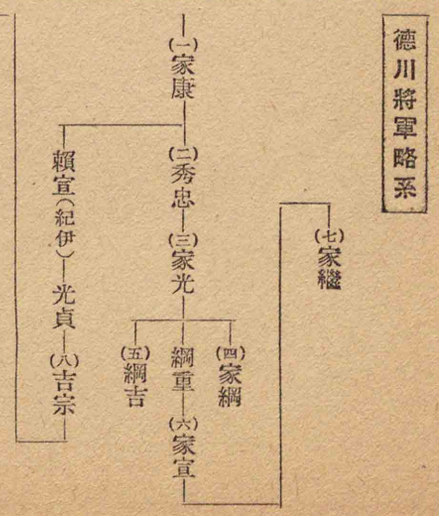
皇室御略系及諸家系圖

- (108) 後水尾
  - (109) 明正
  - (110) 後光明
  - (111) 後西
  - (112) 靈元
    - (113) 東山
      - (114) 中御門
      - 直仁親王（閑院宮）
- (115) 櫻町
  - (116) 桃園
    - (118) 後桃園
  - (117) 後櫻町（女帝）
- 典仁親王
  - (119) 光格
    - (120) 仁孝
      - (121) 孝明
        - (122) 明治
- (123) 大正
  - (124) 今上天皇

題目	天皇	紀元年數	主な事柄
第四十一　大石	後光明天皇	二三一四年	天皇京都所司代の言をしりぞけたまふことたびたびであつた。天皇崩御。（二十二歳）
第四十　德川光圀	後西	二三一七年	林道春歿す。（七十五歳）
			德川光圀大日本史の編纂をはじむ。（二七七年前）
		二三二一年	明亡び清起る。
		二三二二年	方廣寺の大佛を鑄つぶして大佛錢（文錢）を鑄る。
	靈元	二三四〇年	綱吉五代將軍となる。
			是より先山鹿素行赤穗の淺野家に入りしが、この頃江戸にあり。この五年後歿す。
		二三四六年	白石、木下順庵の門人となる。
	東山	二三五〇年	聖堂を上野から江戸湯島に移した。（七月）
			光圀は家を兄賴重の子綱條にゆづる。（十月）
		二三五一年	光圀西山に隱居す。
			白石、友人岡島石梁を加賀侯にすゝむ。
		二三五二年	光圀大楠公の碑を湊川にたつ。
		二三五三年	白石、德川綱豐（後の將軍家宣）に仕ふ。
		二三五五年	大久保、中野に犬小屋をたて、又貨幣を惡くしその數を增す。
		二三五七年	吉宗、越前鯖江の藩主となる。

題目	天皇	紀元年數	主な事柄
良雄	東山	二三六〇年	徳川光圀薨ず。（七十三歳）
		二三六一年	僧契沖歿す。（正月） 淺野長矩、吉良義央を殿中で傷つく。（三月） （長矩は切腹領地は取上げられた）（元祿十四年）
		二三六二年	大石良雄京都を出でゝ江戸に下る。 （十月七日——十一月五日） 良雄等四十七士吉良義央を討つ。（十二月十五日）
		二三六三年	良雄等切腹。（二月四日）（二三一年前）
		二三六五年	吉宗紀伊家をつぐ。
		二三六九年	綱吉薨じ（六四歳）家宣將軍となる。 （白石も幕府に入る）
第四十二 新井白石	中御門	二三七〇年	直仁親王をたてゝ閑院宮家をおこさせらる。
		二三七一年	白石朝鮮使者のもてなしをあらたむ。
		二三七三年	大岡忠相山田奉行となる。
			家宣薨じ家繼將軍となる。
			此の年貨幣を鑄なほした。
		二三七五年	長崎の貿易に制限を加ふ。
		二三七六年	家繼八歳で薨じ吉宗八代將軍となる（白石職を退く）

皇室御略系及諸家系圖



第四十三 徳川吉宗			
		二三七七年	大岡忠相を江戸町奉行とす。
		二三八〇年	キリスト教以外の洋書をよむことを許す。（二一四年前）
		二三八五年	白石なくなる。（六十九歳）
		二三八七年	甘蔗の試植をはじむ。
		二三九〇年	オランダ流の馬術を習ふ。
		二三九二年	關西地方に大飢饉あり。
		二三九五年	甘蔗栽培をすゝむ。
	櫻町	二四〇四年	青木昆陽長崎におもむきオランダ語の研究をなす。
	桃園	二四一一年	吉宗薨ず。（六十八歳）忠相も歿す。（七十七歳）（一八三年前）
		二四一二年	本居宣長京都に上つて漢學・醫學を習ふ。
		二四一六年	竹内式部所司代にしらべらる。（無罪）
		二四一七年	本居宣長伊勢松阪で醫師として開業す。
		二四一九年	式部追放せらる。
		二四二〇年	山縣大貳江戸に塾を開く。
		二四二一年	宣長、賀茂眞淵の門人となる。
	後櫻町（女帝）	二四二七年	山縣大貳殺さる。
			竹内式部八丈島に流さるゝ途中病死す。

題目	天皇	紀元年數	主な事柄	参考
第四十五本居宣長 第四十六高山彦九郎と蒲生君平				
第四十四　松平定信	後桃園	二四三八年	大島の三原山噴火。	
		二四三九年	薩摩の櫻島噴火。	
	光格	二四四一年	家齊入りて十代家治將軍の養子となる。	
		二四四三年	淺間山噴火、諸國大飢饉この年より四年間つゞく。	
		二四四七年	家齊將軍となり松平定信老中となる。（家齊十五歳）（人民の暴動あり）	
		二四四八年	定信決死の願文を江戸本所の歡喜天に納む。（天明八年） 京都の大火。（御所を燒く） 柴野栗山をあげ用ふ。 定信御所造營の指圖をなす。 儉約令を出す。	
		二四五一年	海國兵談出版せらる。	
		二四五二年	林子平罪せらる。 ロシヤの使ラツクスマン根室に來る。（寛政四年）	
		二四五三年	定信伊豆・相模の海岸を巡視す。 高山彦九郎歿す。（四十七歳）林子平歿す。（五十六歳） 定信職を辭す。	國學五大人 僧契沖 荷田春滿 賀茂眞淵 本居宣長 平田篤胤 寛政三奇人 林子平 高山彦九郎 蒲生君平

		二四五八年	本居宣長古事記傳を著す。（一三六年前）
		二四六〇年	蒲生君平山陵を巡拜す。
		二四六一年	宣長歿す。（七十二歳）
		二四六四年	露使レザノフ長崎に來る。
		二四六七年	ロシヤ人千島・樺太をあらす。
		二四六八年	英船長崎で亂暴す。（奉行松平康英自殺）
		二四七三年	蒲生君平山陵志を著す。 君平歿す。（四十六歳）
仁孝		二四八五年	外國船打拂ひ令出る。
		二四八九年	松平定信なくなる。（七十二歳）
		二四九七年	家慶將軍となる。
		二四九八年	高野長英夢物語を著す。（九十六年前）
		二四九九年	渡邊華山愼機論を書く。華山は田原に禁錮、長英は牢に入れらる。
		二五〇一年	德川齊昭弘道館を開く。
			華山田原で自殺す。（四十九歳）
		二五〇二年	外國船打拂ひ令ゆるむ。
孝明		二五一〇年	長英自殺す。（四十七歳）

第四十七・四十八　攘夷と開港

題目	天皇	紀元年數	主な事柄
	孝明	二五一一年	大日本史本紀と列傳出版せらる。
		二五一三年（嘉永六年）	ペリー浦賀に來る。（六月三日）（八十一年前） ペリー國書を久里濱で幕吏に渡す。（六月九日） ペリー一先づ浦賀を去る。（六月十二日） 家定將軍となる。（十月） 齊昭大砲七十四門を幕府に獻ず。
		二五一四年（安政元年）	ペリー再び來る。（正月十六日）（八十年前） 米國と和親條約を結ぶ。（三月三日） 吉田松陰海外渡航を企て失敗す。（三月）……（入牢） 英國（八月）・露國（十二月）・オランダ（翌年十二月）と それぞれ和親條約を結ぶ。
		二五一五年	吉田松陰その家に蟄居を命ぜらる。（十二月）
		二五一六年	ハリス下田に來る。 松陰その家で兵學を教ふることを許さる。
		二五一七年	ハリス將軍家定に謁見通商をすゝむ。
		二五一八年（安政五年）	井伊直弼大老となる。（四月） 日米通商條約を結ぶ。（六月十九日）（七十六年前）

皇室御略系及諸家系圖

徳川將軍略系

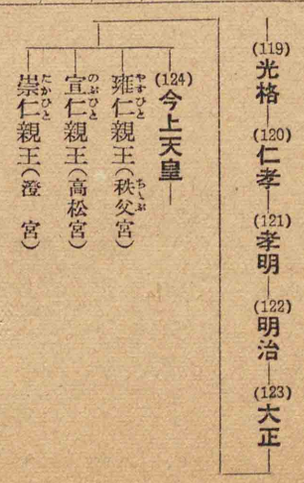
- 家康
  - 賴宣……(十一)家齊
    - (十三)家定
    - (十二)家慶
      - 齊順
  - (十四)家茂
  - 賴房—光圀……齊昭—(十五)慶喜

第四十九

天皇	紀元年數	主な事柄
孝明	二五一八年（安政五年）	オランダ（七月） ロシヤ（七月） 英國（七月） 佛國（七月） とも結ぶ。 紀伊家の慶福（後の家茂）が家定の養子となる。 將軍家定薨ず。（三十五歳・七月） 安政の大獄起る。（九月） 家茂十四代將軍となる。（十月）
	二五一九年	祐宮（明治天皇）藩兵の演習を御覽になる。（六月） 賴三樹三郎（九月）・橋本左内（九月）・吉田松陰（十月） 等死刑となる。
	二五二〇年	井伊直弼浪士の爲殺さる。（三月三日） 徳川齊昭薨ず。（六十一歳）
	二五二二年	勅使三條實美江戸に下る。（十月）
	二五二三年（文久三年）	將軍家茂京都に上る。（三月） 天皇賀茂神社に御參拜あらせらる。（三月） 天皇石清水八幡宮に御參拜あらせらる。（四月） 家茂攘夷實行をちかひ、その日を五月十日と定む。（四月） 長門藩下關で米國船、佛國船及びオランダ軍艦を砲擊す。（五月）

題目	天皇	紀元年數	主な事柄
孝明天皇	孝明	二五二三年	家茂江戸へ歸る。（六月）（文久三年）
			大和へ行幸の詔下る。（八月十三日）
			大和行幸延期の詔下る。（八月十八日）
			三條實美等七人の公卿長門に向ふ。（八月十九日）
		二五二四年	蛤御門の戰があり長門軍敗北す。（七月）
			長門征伐の詔下る。（七月）（七十年前）
			長門藩主その罪を謝す。（十一月）
		二五二五年	家茂第二回長門征伐のため大阪城に入る。（五月）
		二五二六年	薩長二藩聯合の密約なる。（正月）（慶應二年）
			薩藩出兵を辭す。（四月）
			家茂大阪城で薨ず。（二十一歳・七月）
			休戰令出る。（九月）
			慶喜十五代將軍となる。（十二月五日）
			天皇崩御。（三十六歳）（十二月二十五日）
	明治	二五二七年（慶應三年）	明治天皇位につかる。（正月）（六十八年前）
			山內豐信慶喜に大政奉還をすゝむ。（十月四日）

皇室御略系及諸家系圖



第五十　武家政治の終

	明治		
			慶喜大政奉還を奏請す。（十月十四日）
			慶喜大阪城へ出發。（十二月十二日）
		二五二八年（明治元年）	鳥羽伏見の戰はじまる。（正月三日）
			小松宮彰仁親王御出陣。（正月四日）（六十六年前）
			鳥羽伏見の戰終る。（同六日）
			慶喜江戸へ歸る。（同十二日）
			御親征の詔下る。（二月三日）
			有栖川宮熾仁親王東征大總督となる。（二月九日）
			慶喜上野寛永寺につゝしむ。（二月十一日）
			山岡鐵太郎駿府で西鄕隆盛に歎願す。（三月九日）
			五ケ條御誓文を御示しになる。（同月十四日）
			勝安芳、西鄕隆盛と會見江戸城總攻擊中止。（同日）
			江戸城明渡し、慶喜水戸に向ふ。（四月十一日）
			上野彰義隊敗る。（五月十五日）
			江戸を東京と改む。（七月十七日）
			松平容保降り、若松城陷る。（八月二十二日）
			卽位の大禮を行はせらる。（八月二十七日）

題目	天皇	紀元年數	主な事柄	参考
明治天皇 一 明治維新	明治	二五二九年（明治二年）	天皇東京に入らせらる。（十月十三日）	
			榎本方の大鳥圭介五稜郭による。（十月二十六日）	
			王政維新を朝鮮に通知す。（十一月）	
			皇后を御立てになる。（十二月二十八日）	
			薩、長、土、肥の四藩、版籍奉還を奏す。（正月）	
			天皇再び東京に行幸せらる。（三月）	
			全國平定す。（五月）	
			版籍奉還聽屆けらる。（六月）	
		二五三〇年（明治三年）	使を度々朝鮮に送る。（二月、九月、翌正月）	
			始めて公使を條約國に送る。（十月）	
		二五三一年（明治四年）	藩を廢し縣を置く。（七月）	
			岩倉具視等歐米視察に出發す。（十一月十日）	
		二五三二年	學制定めらる。（八月）　此月又使を朝鮮に送る。	
		二五三三年（明治六年）	徴兵令發布せらる。（正月十日）（六十一年前）	
			大久保利通歸朝す。（五月）	
			釜山の吏員日本を侮辱の掲示をなす。（五月）	

維新の三傑
西郷隆盛
大久保利通
木戸孝允

明治天皇 二 西南の役			
		二五三三年（明治六年）	木戸孝允歸朝。（七月）（六十一年前）
			西郷隆盛遣韓大使に内定す。（八月）
			岩倉具視歸朝。（九月）
			太政大臣三條實美急病。（十月）
			岩倉具視太政大臣代理となる（同）
			遣韓大使派遣を中止す。（同）
			西郷隆盛職を辭して歸國。（同月）
		二五三四年	隆盛鹿兒島に私學校を開く。（二月）
		二五三七年（明治十年）	私學校生徒小銃彈藥を奪ふ。（一月三十日）（五十七年前）
			隆盛等鹿兒島出發。（二月十五日）
			熊本鎭臺の谷干城籠城と決す。（二月十八日）
			有栖川宮熾仁親王征討大總督に任ぜらる。（二月十九日）
			谷村計介城をぬけ（二十六日）野津少將の陣につく。（二十八日）
			計介田原坂で戰死す。（三月四日）
			官軍田原坂占領。（三月二十日）
			官軍熊本城に入る。（四月十四日）

明治天皇三　憲法發布

題目	天皇	紀元年數	主な事柄
	明治	二五三八年	木戸孝允(四十四歳)薨ず。(五月)
			佐野常民博愛社を起す。(五月)
			隆盛(五十一歳)等城山により(九月一日)遂に戰死す。(同廿四日)
		二五三九年	大久保利通(四十八歳)島田一郎に殺さる。(五月)
			始めて府縣會開かる。(三月)
		二五四一年	明治二十三年に國會を開くとの勅下る。(十月十二日)
		二五四二年	伊藤博文歐洲に向け出發す。(三月十五日)
		二五四三年	岩倉具視(五十九歳)薨ず。(七月二十日)
			伊藤博文歸朝。(八月四日)
		二五四四年	朝鮮の事大黨我公使館を燒く。(十二月)
		二五四五年(明治十八年)	井上馨京城條約を結ぶ。(正月九日)
			天津條約を結ぶ。(四月十八日)
			內閣制度成る。(十二月二十二日)
		二五四六年	博愛社を日本赤十字社と改む。(十一月)
		二五四八年	市町村制發布。(四月二十五日)
		二五四九年	大日本帝國憲法發布さる。(二月十一日)

皇室御略系及諸家系圖

有栖川宮家御略系

- (100)後陽成
  - 幸仁親王(有栖川宮)……此間四代略……職仁
    - 熾仁親王
    - 威仁親王

明治天皇四　明治二十七・八年戰役　五　條約改正

		西鄕隆盛に正三位を贈らる。(同)
	二五五〇年	教育勅語を下さる。(十月三十日)　(四十四年前)
		第一回帝國議會開院式を行はる。(十一月二十九日)
	二五五一年	三條實美(五十五歳)薨ず。(二月)(明治二十四年)
	二五五四年(明治二十七年)	朝鮮東學黨の亂。(四月)　(四〇年前)
		清國より出兵の通知あり。(六月七日)
		清兵牙山に到着。(六月八日)
		我混成旅團仁川着。(同十二日)
		改正日英條約成る。(七月十六日)
		豐島沖の海戰。(七月二十五日)
		成歡の戰。(同二十九日)
		清國に宣戰の詔下る。(八月一日)
		大本營を廣島に進めらる。(九月十五日)
		平壤占領。(同十六日)
		黃海の戰。(同十七日)
		旅順を陷る。(十一月二十一日)
	二五五五年	威海衛攻擊開始。(一月三十日)

伏見宮家御系譜

- (93)後伏見天皇(此間四代略)……
  - (102)後花園天皇
  - 貞常親王……(伏見宮)
- 晃親王(山階宮)
- 朝彥親王(久邇宮)
- 彰仁親王(小松宮……初は仁和寺宮嘉彰親王)
- 能久親王(北白川宮)
- 貞愛親王(伏見宮)
- 載仁親王(閑院宮)
- 依仁親王(東伏見宮)
- ……(此間十五代略)……邦家親王
  - 恒久王(竹田宮)
  - 成久王(北白川宮)

明治天皇　四　明治二十七・八年戰役
五　條約改正

題目	天皇紀元年數	主な事柄
	明治（明治二十八年）	清國北洋艦隊降る。丁汝昌自殺（二月十二日）
		清國講和使李鴻章下關に來る。（三月十九日）
		下關條約成る。（四月十七日）
		露・獨・佛三國干涉起る。（四月二十二日）
		三國の要求に應ず。（五月五日）
		近衛師團三貂角に上陸。（同二十九日）（能久親王の臺灣征討）
		臺灣總督府を設く。（六月十七日）
		伏見、乃木旅團上陸。（十月十一日）
		臺南占領。（同二十一日）
		能久親王薨去。（四十九歳）（二十八日）
		臺灣平定。（十一月）
	二五五七年	朝鮮國號を韓と改む。（明治三十年）
	二五五八年	ドイツ膠州灣租借（三月六日）（明治三十一年）
		ロシヤ關東州租借（同二十七日）
		英國 九龍半島租借（六月六日） 威海衛租借（七月一日）
	二五五九年	佛國廣州灣租借（十一月十六日）（此年より改正條約行はる）

皇室御略系及諸家系圖

明治天皇　六　明治三十七・八年戰役

		義和團外人排斥を始む。
	二五六〇年（明治三十三年）	義和團の亂。（北清事變）我公使館員杉山氏殺さる。（六月十一日）
		聯合軍大沽砲臺占領。（同十七日）
		二十日獨公使殺さる。
		聯合軍天津占領。（七月十三日）
		聯合軍北平に入り公使館を救ふ。（八月十四日）
	二五六一年	北清事變の講和成る。（九月七日）（明治三十四年）
	二五六二年	日英同盟成る。（一月三十日）（三十二年前）
		御前會議にて日露國交斷絶を決す。（二月四日）
	二五六四年（明治三十七年）	我艦隊旅順攻擊。（同八日）（明治三十年）
		露艦ワリヤーグ、コレーツ、スンガリーを仁川で爆沈。（同九日）
		宣戰の詔下る。（同十日）
		旅順閉塞始まる。
		第一回（二月二十四日）第二回（三月二十七日）第三回（五月三日）—廣瀨中佐
		蔚山沖の海戰—リューリツク沈沒。（八月十四日）
		遼陽占領。（九月四日）沙河の會戰。（十月十四日）
		二百三高地占領。（十二月六日）

題目	天皇	紀元年數	主な事柄
	明治	二五六五年（明治三十八年）	旅順陷る。（一月一日） 奉天大會戰。（三月十日） 日本海大海戰。（五月二十七八日）（バルチック艦隊全滅） ルーズベルト講和をすゝむ。（六月九日） 樺太占領。（七月三十一日） 日露講和條約成る。（九月五日）（ポーツマス條約） 韓國日本の保護國となる。（十一月十七日） 滿洲軍東京に凱旋す。（十二月七日）（明治三十九年）
明治天皇 七		二五六六年	韓國統監府開く。（二月一日）
韓國併合		二五六九年	伊藤博文ハルビンで暗殺さる。（十月二十六日）（明治四十二年）
		二五七〇年（明治四十三年）	韓國併合條約なる。（八月二十二日）（二十四年前） 韓國を朝鮮と改む。（八月二十九日）
		二五七二年（明治四十五年）（大正元年）	清國亡び支那共和國となる。（二月） 天皇御發病。（十月十九日） 天皇崩御。（六十一歲）（七月三十日） 大正天皇踐祚の上年號を大正と改む。（七月三十日）
明治天皇 八			

皇室御略系及諸家系圖

李王家御略系

(一)太宗李成桂……大院君（明治三十一年一月二十四日薨去）

(26)李熙（李太王）（大正八年一月二十二日薨去）

李坧（大正十五年四月二十六日薨去）

李堈

天皇の崩御	第五十二 大正天皇	
		明治天皇御大葬。（九月十三日—十五日）
		二五七四年（大正三年） 皇太后御不例。（三月二十六日） 皇太后崩御。（四月十一日） 皇太后御大葬。（五月二十四日—二十六日）
		オーストリヤ皇太子妃暗殺さる。（六月二十八日） オーストリヤとセルビヤ開戰。（七月二十八日）（歐洲大戰起る） 日本ドイツに宣戰す。（八月二十三日）（二十年前） 青島攻擊。（九月二日開始、十月三十一日總攻擊開始、十一月十七日開城）
		二五七五年 即位禮御擧行。（十一月十日）大嘗祭御執行。（十四日）
		二五七六年 皇太子裕仁親王立太子禮行はる。（十一月三日）
	大正	二五七七年（大正六年） 我艦隊地中海に出動す。（二月） 米國も參戰す。（四月）
		二五七八年（大正七年） 我國シベリヤ出兵を宣言す（八月二日） ドイツ、オーストリヤ兩皇帝退位。（十一月七日） 休戰條約なる。（十一月十一日）
		二五七九年 對獨講和條約調印なる。（六月二十八日）

(124)今上天皇（御名裕仁）

- 成子內親王（照宮）
- 和子內親王（孝宮）
- 厚子內親王（順宮）
- 明仁親王（繼宮）
- 正仁親王（義宮）

題目	天皇	紀元年數	主な事柄	參考
第五十二 大正天皇	大正	(大正八年)	我尼港守備隊バルチザンと戰ふ。(三月)	
			我軍尼港占領。(六月三日)	
		二五八一年 (大正十年)	皇太子殿下歐洲に向つて御發駕。(三月三日)	
			皇太子殿下歐洲より御還啓。(九月三日)	
			ワシントンで軍縮會議開かる。(十一月十二日)	
			皇太子殿下攝政の任に就かる。(十一月二十五日)	
		二五八二年 (大正十一年)	ワシントン軍縮會議終る。(二月六日)	
			青島を支那に還付す。(十二月四日)	
		二五八三年 (大正十二年)	關東地方に大震災起る。(九月一日) (十一年前)	
			國民精神作興に關する詔書下る。(十一月十日)	
		二五八五年	普通選擧法公布さる。(五月五日)	
		二五八六年 (大正十三年)	天皇御不例。(十月二十七日)	
			天皇御崩御。(十二月二十五日)	
	今上	(昭和元年)	天皇御踐祚の上年號を昭和と定めらる。(十二月二十五日)	
		二五八七年	大正天皇御大葬行はる。(二月七、八日)	
			明治節御制定の詔下る。(三月三日)	

我國六大都市
東京・大阪・京都・名古屋
横濱・神戸

對獨講和會議全權委員
西園寺公望
牧野伸顯
松井慶四郎
珍田捨巳
伊集院彥吉

ワシントン會議全權委員
加藤友三郎
弊原喜十郎
德川家達

第五十三 今上天皇即位			
今上		二五八七年 (昭和二年)	第二軍縮會議ジュネーブに開かれ、(六月二十日) 成らずして終る。(八月四日)
			最初の普通選擧行はる。(二月二十日)
		二五八八年	御即位の禮(十一月十日)を擧げさせられ又大嘗祭行はる。(同十四日)(昭和三年)
		二五九〇年 (昭和五年)	ロンドンにて海軍軍縮會議開かる。(一月十一日)
			日、英、米三國の主力艦・補助艦の協定成り、ロンドン海軍條約調印。(四月二十二日)
		二五九一年 (昭和六年)	萬寶山に支那暴民と朝鮮農民と衝突。(七月二日)
			中村大尉(後少佐)支那兵のため蒙古にて虐殺のこと發表。(八月十七日)
			支那兵我滿鐵線路を爆破す。(九月十八日) (滿洲事變起る)
			日支兵衝突、我兵北大營及奉天を占領す。(十九日)
			我軍吉林に入る。(二十日)
			馬占山軍をチチハル方面に破る。(十一月十八日)
			我軍錦州に入城。(十二月三十日)
		二五九二年 (昭和七年)	上海事變起る。(一月二十八日)
			我軍上海攻擊開始。(二月二日)
			聯盟調査團來朝。(二月二十九日)

題目	天皇	紀元年號	主な事情
第五十三 今上天皇即位	今上		滿洲國建國を宣言す。（三月一日） 日支停戰協定成る。（五月五日） 陸軍大將（後元帥）武藤信義、關東軍司令官・全權大使・關東長官となる。（八月八日） 日滿議定書調印、滿洲國を承認す。（九月五日）
		二五九三年（昭和八年）	國際聯盟を脱退す。（三月二十七日） 熱河討伐成る。（一月八日開始）（二月二十三日一齊に進擊）（四月一日長城占據）（七月五日日支協定成る）
第五十四 國民の覺悟			皇太子殿下御生誕。（十二月二十三日）

昭和九年一月五日印刷
昭和九年一月十日十版發行
昭和九年一月二十日五版發行
昭和九年一月廿五日二十版發行
昭和九年二月三日廿五版發行
昭和九年二月五日二十版發行
昭和九年二月十日廿五版發行
昭和九年二月十五日四十版發行
昭和十年二月十五日四十五版發行
昭和十年二月廿日二十版發行
昭和十年二月廿五日五十五版發行
昭和十年二月九日六十版發行
昭和十年三月一日六十五版發行
昭和十年三月五日七十版發行
昭和十年三月十日七十五版發行

小學國史附圖奥附

定價 金三十錢

著作權所有

編著者 魚澄惣五郎
編畫者 福田惠一
編畫者 勝田哲
發行者 湯川松次郎
印刷所 精版印刷株式會社 大阪市西淀川區海老江町
印刷所 平版印刷合資會社 大阪市東區和泉町二丁目
印刷所 井下書籍印刷所 大阪市西區阿波座中通二丁目

發行所 東京市神田區錦町二丁目 大阪市南區順慶町一丁目 湯川弘文社
電話 東京 神田三三八番 大阪 船場七三二二番
振替口座 東京 一五九二七〇番 大阪 七三一二九番

著者	書名		定價	送料
學習法研究會	小學大全科學年別	二年まで	各 ・三〇	・〇八
同	小學大全科學年別	三年まで	各 ・三五	・〇八
同	小學大全科學年別	五年高二まで	各 ・五〇	・一四
同	完成・讀方算術	一年六年まで	各 ・二五	・一〇
同	地理・國史・理科・三科新練習	五・六年	各 ・三〇	・一〇
同	國語新練習	一年六年まで	各 ・一五	・〇六
同	算術新練習	一年六年まで	各 ・一五	・〇六
淺上慧郎先生 泉星一先生	小學模範生の讀方	四年六年まで	各 ・三五	・〇八
葛城文彥先生	小學模範生の地理	五年六年用	各 ・三五	・〇八
芳村英夫先生	小學模範生の國史	五年六年用	各 ・三五	・〇八
富永藤九郎先生	小學模範生の理科	四年六年まで	各 ・三五	・〇八
田端正之先生 澤源太郎先生	小學模範生の算術	四年六年まで	各 ・三五	・〇八
同	優等生になる 五科主要問題	答とその方の	一・二〇	・一四
同	優等生になる 國語主要問題	答とその方の	・三五	・〇六

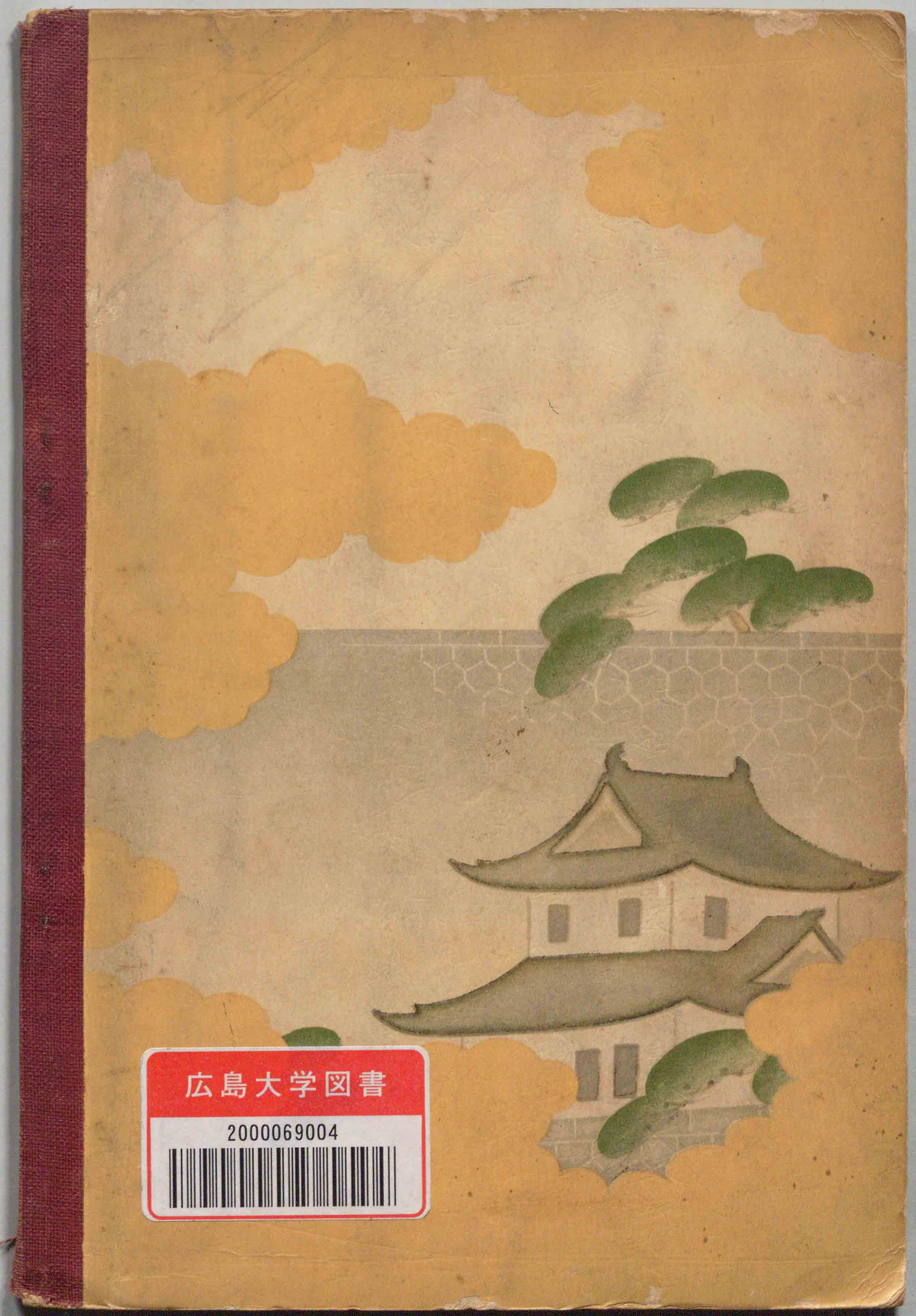
發行所 東京市神田區錦町三丁目一番 振替東京三五九五〇二 大阪市南區順慶町一丁目三五番 振替大阪七一二九七 湯川弘文社

著者	書名		定價	送料
澤源太郎先生	優等生になる 地理主要問題	答とその方の	・三五	・〇六
同	優等生になる 國史主要問題	答とその方の	・三五	・〇六
同	優等生になる 理科主要問題	答とその方の	・三五	・〇六
同	優等生になる 算術主要問題	答とその方の	・三五	・〇六
澤源太郎先生	小學算術標準學習書		・九〇	・一〇
泉星一先生	小學國語標準學習書		・九〇	・一〇
吉村恒雄先生	小學三科標準學習書		・八〇	・一〇
田端正之先生	小學算術總問題の完成		・八〇	・一二
學習法研究會	小學力だめしの算術問題	三・四・五・六年	・一五	・〇四
今西九平先生 大橋惣三郎先生編	讀方・書方・書取百點カード	三・四・五・六年（前期用・後期用）	・二五	・〇八
學習法研究會	新式模範自習辭典		・七〇	・一四
同	國語書き方の練習	一、二、三、四、五、六	・一〇	・〇二
同	模擬試驗 國語腕だめし	尋常五年用 尋常六年用	各 ・三五	・〇八

發行所 東京市神田區錦町三丁目一番 振替東京三五九五〇二 大阪市南區順慶町一丁目三五番 振替大阪七一二九七 湯川弘文社

著者	書名	名	定價	送料
同	模擬試驗	算術腕だめし	尋常五年用 尋常六年用 各 ・三五	・〇八
大內領一先生		伸びる	地理 國史 理科 三科の要點	・六〇	・一〇
岡部繁雄先生	珠算問題速成の鍵	珠算上達カード	・三五	・〇六
學習法研究會	全國中學校女學校實業學校入學試驗	に出た問題と模範解答	・七〇	・一〇
同	全國師範學校	入學試驗に出た問題と模範解答 第一部用	・七〇	・一〇
同	中學校女學校實業學校	全國入學試驗 問題集及模範解答	一・〇〇	・一四
同	中學校女學校實業學校	近畿入學試驗 問題集及模範解答	・九〇	・一〇
同	最後の中學校女學校實業學校	入學模擬試驗七十五回 附試問解答	・四〇	・一二
澤源太郎先生	系統的受驗準備	讀方學習の研究	・七〇	・一〇
川村親晴先生	系統的受驗準備	算術學習の研究	・七〇	・一〇
澤源太郎先生	中學校女學校實業學校	入學試驗問題とその答へ方	・六〇	・一〇
同		筆問筆答口頭試問答へ方の指導	・八〇	・一二
大內領一先生 千原好文先生	小學	全科受驗の急所と模範解答	一・〇〇	・一四

發行所 東京市神田區錦町三丁目一番地 振替東京三五〇二九 大阪市南區順慶町一丁目三五番地 振替大阪一七二九七
湯川弘文社



広島大学図書
2000069004